

おしあーん

おしあーん

登場人物

金子 綾香

清掃会社「ほほえみ」社長

黒田 義男

清掃会社「ほほえみ」従業員

岩崎 富多

清掃会社「ほほえみ」従業員

山本 絵里香

清掃会社「ほほえみ」従業員

森 光太郎

清掃会社「ほほえみ」従業員

玉田 茂

アパートの大家

玉田 玲子

アパートの大家

野上 真智子

登坂 幸平の義理の娘

野上 幸雄

野上 真知子の夫

登坂 幸平

アパートの元住人

アパートの部屋の中である。

上手側の壁に出入り口のドアがある。

ドアの中は、6畳ほどのキッチンダイニング、という風で、その中央には床に座る式の座卓テーブルがある。

上手奥に申し訳程度の大きさのキッチンのシンクがある。その隣に申し訳程度の小さな冷蔵庫がある。

ただし、シンクや冷蔵庫はパントマイムでもかまわない。

正面奥の壁の下手よりドアがあり、その中がユニットバスとなっている。

下手側の壁には引き戸があり、その中は生活空間の部屋に続いている。

舞台上のダイニングには、ペットボトルやカップラーメンの空き容器が散乱している。

10月15日 10:00 いすみ野駅と書かれたメモが無造作に壁に画びょう貼りされたりしている。

正面の壁にヤクルトスワローズのユニフォームがハンガーで吊るされている。

生活した形跡は生々しいが、生活空間を飾ったり彩るようなものや花や絵画はない。

玉田茂と金子綾香が上手のドアの玄関先に立っている。

茂 (壁の電灯のスイッチを入れて中に入って) どうぞ。 っって言っても私の家じゃありませんけど。

金子 失礼しまーす(中に入る)

黒田義男、森光太郎、おのおの挨拶をして中に入ってキョロキョロと見渡す。

茂 いや、すごい臭いですねえ。

金子 いやー。でもそんなひどくはありませんよ。

茂 そうですか？

金子 はい。もっとひどい時もありますから。

茂 ふーん・・・それじゃあ、見積もりってのをするんですけどね？

金子 はい。部屋の中の様子を少し見させて頂いて、どのくらいどの料金になるか見積もらせて頂きます。それでもし納得いただけないよう

でしたら、キャンセルという形を取って頂いてもかまいません。その時はもちろん料金は一切頂きませんので。

茂 キャンセルって言っても、掃除してもらえないと次の人にこの部屋貸せないから、またうちのカメラにギャーギャー言われて困っちゃう

んだよね。

金子 (愛想笑いして) そうですよねえー

茂 最近多いんですよね？ こういうの、なんて言うんだっけ・・・こうやって身寄りが無い人が一人ぼっちでなくなるのって・・・

金子 孤独死、でしょうか？

茂 そうそう、その孤独死。

金子 ええ。まあそれなりに・・・

茂 じゃあ、忙しくて結構な話ですよ。お宅みたいな商売は。

金子 まあ、同じような仕事されてる所もたくさんいらっしやいますので・・・

茂 ふーん。まあうちみたいなアパートの大家は、こうやって清掃代って言うってお金が飛んでっちゃうからね。

金子 それでカミさんがまた「なんであんな人に部屋貸したんだ」ってうるさくて・・・

茂 確かに、大家さんの方にとっては大変でいらっしやいますよねえ。お持ちの物件でこういうことが起きますと。

金子 うちのアパート、独り暮らしで身寄りのない人が死んじゃうの、これで4回目なんです。今まで使っていた清掃会社が、「人出不足

ですぐには行けません」って言うから、このまま置いとくわけにも行かないと思って、お宅に電話してみたんです。

金子 ありがとうございます。

茂 じゃあ、したの102号室にいるから、見積もり出来たら持ってきてください。私がいなくても、カミさんがいますから。

金子 かしこまりました。

茂 じゃあお願いします。

茂、ドアから去る。

金子と黒田、営業スマイルをやめて、ハアハアと苦しそうな表情。

金子 あー、臭かったあ。

森 臭かったんですか？ 全然大丈夫なんですごいなあとと思ってました。

金子 そんなわけじゃないでしょうか？ お客様の前だから我慢してたのよ。さてと、見積もりしますか。

黒田 そうですね。

金子と黒田、部屋のあちこちを見て回る。

森、ぼーっと突っ立っている

黒田 森君？森君？

森 はい？

黒田 はいじゃなくて、オシの傍にいてさ、見積もりのためにいろいろ見ないと。

森 あ、はい。

森、黒田のそばに寄っていく。

金子、引き戸の中に入る。

黒田 まあまだうちに入ってここが最初だもんな。でもマ、すぐ慣れるよ。

森 はい。あの、ここにいた人って・・・

黒田 ああ。男の一人暮らし。なんでも、外で倒れて、救急車で運ばれてそのままってパターンみたいだったから、部屋はそんなに汚れてないでしょうって社長が言ってたな。マ、これくらいなら・・・

森 部屋の中で死んでると、どうなんですか？

黒田 すこいよお。一番すこいのは、夏の暑い盛りに部屋の中で死んでさ、そのまま誰にも発見されなく臭いで分かるってパターンだな。匂いはもちろんすこいし、その人が倒れていた場所ってさ、畳でも絨毯でも黒い人型のシミが出来てたりするんだよ。

森 人型のシミ・・・ですか。

黒田 素敵。その人が倒れた形に手足を動かしてこうだったり手足を変えてこうだったり。

森 へ・・・

黒田 そいうう時はキツイけど、指でお金のサインコシも高いんだ。

下手の中から、ガチャンという音と「なにコレ？なんでこんなトコにあんのよ？」という声。

黒田 特殊清掃。って言うんだよ。

森 え？

黒田 自殺とか事故死とかで人が死んだ部屋を清掃する場合は、そういう「人が死んだ」って痕跡を跡形も無く消して、へたしたら次の日にはまた部屋を借りたいて人に中を見せたりしてるんだ。

森 じゃあ、その借りたいって人には、ここで前の人が死んだなんて・・・

黒田 言うわけないだろう？「ちょうど前の方が職場の転勤が決まりました、引っ越された所なんですよ。いやータイミング良かったですね」なんて嘘並べておくんだよ。

森　　なんか・・・エグイですね。

黒田　もうねえ、人が一人死ぬなんて、どこにでもある当たり前の事になっちゃってんだな。

森　　僕・・・去年、インドを一人で旅行してたんですよ。

黒田　インド？　それって、自分探しの旅か？

森　　まあそんなもんですけど・・・ガンジス川のほとりで、タンカで死体を持ってきて、キャンプファイヤーするみたいに死んだ人を焼くんです。その火をみんな、インドの人は特に何をするってわけでもなく見つめてて。

黒田　ん？

森　　それだけなんですけど・・・

黒田　ふーん。まあ、インドも日本も、誰か死ぬと、その処理で後の人が大変って事はおんなじじゃない？

森　　(少し臍に落ちないようそつですか、ね・・・)

金子　(下手から出てきて)黒田さん、ちゃんと見てる？

黒田　見えますよ。新人の教育も兼ねて。

金子　全くもう・・・アタシこっち見ますからね。

黒田　はい。

金子、トイレのドアに入る。すべに出てくる。

黒田　どっしました？

金子　ここだったわ。匂いの原因。

黒田と森、トイレのドアの中に入ってみる。すべ出てくる。

黒田　ウワー。こりゃすげえ。(金子に話まっていますね。トイレ)。

金子　うん。詰まったまんま、中途半端に流しながら用足してみたいね。

黒田　これ、大変ですよ。水つまり系の業者に頼んだ方が・・・

金子　うちらで出来るだけやって無理だったらね。

黒田　(少し不満そうに)へーい。

森　　(ドアの中を見終えて)アタシもきれいにするんですか？

黒田　そっつらっつら。

森 オエー!

金子 まあ・・・Bってとこかな。ちょっと大家さんに話してくるわ。

金子、上手ドアから出ていく。

森 Bってなんですか？

黒田 部屋の汚さをABCDEの五段階で決めてるんだよ。Aが一番きれいで、Eはさっき言った人の形の黒いシミみたいなヤツ。中には部屋が生ごみとか溜まってるゴミ屋敷で、床には黒いシミってスペシャルEの時もあるからな。

森 じゃあ、今回は結構楽なことですか？

黒田 まだ分からないよ。いろいろ片付けてって何が出てくんのか。前にBだった現場で、みんなでこれは楽だねなんて言うってだけ、最後に奥の部屋の押入れ開けたらさ、なんとすごい・・・(森を見て)やっぱりやめとくわ。

森 エ？

黒田 言うのやめとく。新人には刺激が強すぎるわ。

森 え、でも・・・押入れから何が出てきたのか、気になるじゃないですかあ？

岩崎富多、山本絵里香、清掃道具を持って上手より入ってくる。

岩崎 社長は？

黒田 見積もりの交渉中。

岩崎 ランクは？

黒田 B

山本 Bか。大丈夫ですか？ この前のB、スゴイもん出てきましたよね？

黒田 あー、西区のあそこのアシか？ そつだったな。

山本 今度はアシよりもっとヤバイものとか？

岩崎 大丈夫だよ。そんなしょっちゅう出るもんじゃないから。アシは。

森 あのすいません。さっきからすごいとかアシって、何が出てきたんですか？ 気になってしょうがないんですけど。

山本 まあまあ大丈夫だから新人。やめんなよ。

黒田 (あ、あと・・・そのトイレがちよっとな。

岩崎、山本、すぐ反応して、ドアの中に入る。すぐ出てくる。

山本 マジっすか？ クソだらけじゃないっすか？

岩崎 まあしょうがない。これだけでラッキーと思わなきゃ。

山本 じゃあ・・・今のうち決めちゃいましょうよ。

岩崎 今か？

山本 どうせやるんでしょ？

黒田 そうだよな。勝負は早い方がいい。

森 今度は何です？

黒田 森君はどうする？

岩崎 新人は、最初は無しだ。

山本 マジかよ？ いいなあ。

森 だから、今度は何の話なんですか？

黒田 よし。やるか。

岩崎 ああ。

山本 ぜってえやってやる(肩を回したり首を回したりする)

森 何が始まるんですか？

三人、少しの間ならみ合い、「最初はグー。じゃんけんポイ！」とじゃんけんをする。

「黒田が負けた場合」

黒田 クソー！ ○○を出したからだ！ オレのバカ！

「岩崎が負けた場合」

岩崎 負けた・・・

黒田 へっへー、お疲れさーん。

岩崎 アし？ そう言えば、この前の戸塚の現場、負けたオマエが体の調子が悪いって言いだして、オレ替わったよな？

黒田 エ？ そうだったけ？

岩崎 そうだったな。アしの貸しが一個あったよな？ じゃあ、アしをここで返してもらおうか。チェンジ。



黒田 く、クソー！ あの戸塚が無ければ。オシのバカ！

「山本が負けた場合」

山本 負けた・・・

黒田 へっへー、お疲れさーん。

山本 アし？ ちよい待ってください。寿町の簡易宿泊所でやった時、負けた黒田さんが頼んでまたからアタシ変わりましたよね？ ネエ？

黒田 エ？ そつだっけ？

山本 あの貸し今使いまーす。ヤリい！

黒田 く、クソー！ あの寿町が無ければ。オシのバカ！

岩崎 じゃあ、トイレ担当は黒田って事で。

上手ドアより、金子が戻ってくる。

金子 オッケーよ。大家さんからゴー出たから。じゃあ始めましょうか。えーと、トイレは？

岩崎 山本 黒田さんです。

黒田 (しびしび手を上げて) はい。

金子 じゃあ、森君は岩崎さんについて、向こうの部屋。アタシと絵里香ちゃんはこっちの部屋って事で、頑張らまじょう！  
全員それぞれで はい。

黒田はトイレ吸盤とバケツを持ってドア内に消える。

岩崎と森は下手に入る。

金子と山本は室内の片付け作業に入る。ペットボトルなどをゴミ袋に入れ出す。

山本 しっかり、こういう独りで死ぬ人って、男の方が多くないっすか？

金子 うーん・・・男の人の方が、年取ると頑固だしプライド高いわだしで、外の世界と触れ合わなくなっちゃうからかしらね。

山本 この人、どんな人だったんでしょっね。

金子 一つだけ分かる事があるわ。

山本 なんすか？

金子 (ユニフォームを指して) ヤクルトファン。

山本 そんなのアタシだって分かりますよ。何やってた人っすか？仕事とか

金子 販売促進員。だったって。

山本 エ？

金子 ほら、デパートとかのイベントで、いろんなお店が集まるフェスティバルみたいなやる時ってあるじゃない？ああいう時に、ブース

出して弁当とか総菜とか売る人っているでしょう。ああいう人みたい。

山本 あー。あの、エプロン付けて「いらっしやいませ」って言うてる人？

金子 そうそう。だから、出張みたいにあちこちのデパートに行ってたみたいで、留守にした事が多かっただって大家さん言ってた。

山本 へー。だからかな。あんまり生活してた感じがしないですよね？

金子 そう言えばそうよね。

山本 何歳で死んじゃったんですっけ？

金子 六十・・・四とか五じゃなかったか？

山本 めっちゃ若いじゃないっすか。どんな顔だったのかなあ。

金子 さあ。どこから、写真とか出てきたら分かるけど。

山本 そっか。ちょっと向こう見えます。

山本、 下手ドアに入る。

金子 あ、山本さん。こっちやらないと・・・(ため息)

山本、 免許証を持って出てくる。

山本 ありましたよ免許証。森君が見つけたっす。

金子 そうなの。

二人、 免許証の写真を眺める。

山本 のぼりざか、こうかい？

金子 たぶんね、これ、のぼりさかかって書いて、とさかかって読むのよ。

山本　へー・・・なんつか・・・おっさん？

金子　そりゃそうよお。六十すぎなんですよ。

山本　しかも、あんまイ男じゃないっスね。

金子　（苦笑いしながら）そうねエ。

森、下手からノートを持って出てくる。

森　あの・・・なんか、変なノート見つけて。で、岩崎さんに見せたら、社長にも見せた方がイイって言われたんですけど・・・

金子　変なノート？

森　はい。なんか、殺人事件の事が書いてあって・・・

金子　？

金子、ノートを受け取り、ページをめくって読んでみる。

山本、森、覗き見る。

黒田、ドアから出てくる。

黒田　いやー、全然流れないわ。（三人の様子を見て）どうした？

山本　（指をさしてノートを示す）

黒田　（三人の輪に加わる）

金子　警視庁長官狙撃事件。

山本　け、けいし？　なんスかそれ？

黒田　昔な、1995年くらいか？警察の警視庁長官が銃で撃たれて殺されたんだよ。警察は自分達の大將殺されたモンだから、必死になって犯人探したんだけど、結局犯人見つからなかったの。今もまだ犯人は捕まってないんだ。

金子　新聞の記事こんなに貼り付けてあって、すごい詳しく調べてるわね。なんでこんなに調べたのかしら？

黒田　犯罪マニアとかか？

金子　（ノートめくって）でも、この事件の事しか書いてないのよね・・・

森　（ここ見てくださいよ。「オしは長官の背中に向けて銃を向け、引き金を引いた。一発。まだ駄目だ。もう一度引き金を引いた。二発。まだだ。三発。そして、もう一発。倒れた長官を騒いだ周囲の男達が囲んだ。4発撃てば確実に死ぬだろう。そのまま、自転車に乗り、目立たないように出来るだけ普通のスピードで現場を離れた」

黒田 これは・・・なんだ？ 妙にリアルじゃねえ？

山本 エ？じゃあ、この人・・・犯人とか？

黒田 そんなまさか・・・

森 でも、ココ見てください。ほら、逃走経路書いてありますよ。「南千住駅のゴミ箱に黒いインクを捨ててから、上り電車に乗る」って。

黒田 いや。でも・・・

森 これって、警察とかに届けた方が？

山本 ヤベエ。殺人犯の現場とか人生ハツだわ。

黒田 まだこんなノート出ただけだろう？特に、証拠とか無いし。

森 でも、殺害現場にいた人しか知らないような事が書いてありますよ。「長官の身体をかばった男の顔が引きつっていた」とか。「地面のアスファルトに、長官から流れた赤い血液が細く流れている」とか

山本 あたし、夕方のニュース出ちゃうかな？だとしたら、マーク直しとかないとやばい。

森 これ読んだ岩崎さんも、難しい顔してましたよ。

黒田 アイツはいつも無駄に難しそうな顔なんだよ。

山本 あー、ネイルサロン行つときゃよかったなあ。

金子 (ノートを閉じて) ハイ。ここまでく。このノートは見なかった事にします。誰も、見てない。だから、仕事に戻りましょう。森君。あっちの作業に戻って。

森 はい。(下手に戻る)

黒田はドアの中に。山本も作業に戻って散開のような感じになる。金子はノートをテーブルに置く。

金子と山本とではらく無言で片付ける。

山本 でも社長。ここの人、ホントに、ナントカ長官を撃った犯人かもしれないっすよ？

金子 まあでもさ、私達は刑事とか探偵とかじゃないんだから。片付け屋さんでしょう？ 自分達の仕事しよっよ。

山本 (ちよっと不服そうに) はい。

金子 例えばだけど、長官を撃った拳銃とか出てきちゃったら、さすがにアシだけどね。

山本 拳銃・・・あるとしたら、なんか、どこか隠してそうですね。

金子 そうよね。押入れの一番奥とかに、普通の菓子箱みたいなものに入っていたりとか？ これくらいの箱で。

山本 ああ、ありそうありそう。

金子　まあないけどね。

山本　ないっすよね。ハハハ。

森と岩崎、出てくる。

森　社長ー。すみません。こんなもの見つけたんですけど。

金子　なにになに？　この箱・・・結構重いんだけど

森　はい。

金子　これ・・・中身は？・・・なに？

森　・・・

金子　なんで答えないの？・・・(岩崎を見る)

岩崎　見た方がいいです。

金子　(意を決して箱を開ける。と、油紙に包まれたなにか)

山本　やば。

金子　森君・・・これ、どこにあったの？

森　押し入れの一番奥の方になりました。なんか、大事そうに仕舞われていたんで、ちょっと気になって。

金子　あ、そー・・・そうなの・・・なんか嫌な予感がするんだけど・・・見なきゃダメ？

岩崎　見てください。

金子　(決心して油紙を開けると、銃だった)

山本　うわ、きたよ。

金子、三人の顔を見て、どつしよつかっつと目で訴える。

三人、金子の顔を見返す。

暗転

第二幕

五分後。テーブルの上に置いた銃の入った箱を、金子、山本、森、岩崎、が見ている。金子と岩崎は立って腕を組んで考えている。森はなぜか恐縮して座っている。山本は面倒くさそうに座っている。正面のドアから、頭にタオルを巻いた黒田が出てくる。

黒田 ダーメだ。ぜんっせん流れないわ。(気づいてん？どっしたの？)

岩崎 (テーブルの銃を指さす)

黒田 ア、なんだこれ？(しばしじっと見る)・・・どこから出てきた？

岩崎 押し入れの奥。

黒田 誰が見つけたの？

岩崎 森君。

黒田 新人かよ。ひき、強いなあ・・・で、どうするんです？

岩崎 どうするって？

黒田 そりゃアだよ。警察に連絡とか？

金子・・・まだ、本物ってわけじゃないからね。ほら、おもちゃかもしれないじゃない？

黒田 でも、本物の銃だったら・・・さっきのノートに書いてあったように、この人、警視庁長官を撃った犯人かもですね？

山本 ああ。登坂さん？

黒田 え？

山本 いや、ここに住んでた人っス。仕事は、販売なんか員？ほら、デパートのなんとか祭りとかで、お店出したりする、エプロン着てる人。

黒田 へー、そうなんだ。あ待てよ・・・ひょっとしたら、その販売なんか員ってのは仮の姿で、実は、人からの依頼を受けてやる、殺し屋

だったりして？

山本 したらマジすこいっスね。映画みたい。

黒田 だろだろ？それで、依頼を受けて、警視庁長官も始末したとか？長官がいると警察内で出世できないやつからの依頼で。

山本 オー、それっぽい。

森 やっぱり警察に届けた方がいいんじゃない？

黒田 なら、一応、ここが現場になるわけだな。

山本 あ、じゃあ、科捜研、来るかな？「沢口康子です」

黒田 あれは殺人現場にしか来ないだろう。

山本 そっか。

岩崎 まだ、そのノートと、本物だか分からない拳銃が出てただけだろうっ？警察までは呼ぶ必要ないんじゃないか？

黒田 エっでもぎ、もし本物だったらどうするのよ？

岩崎 現実問題として、本物の銃を押し入れの奥に隠しておくか？警察が来て探されたらすべ見つかる所に。どこが見つからないトコに捨てたりするんじゃないのか？海に投げるとか、山に埋めるとか

黒田 (不服そうに) そっかよ。

岩崎 ちょっと考えたら分かるだろ。思った事すべポンポン言っ前に、ちょっとは考えろよ。

黒田 (ムツと睨む)

森 (山本に) 大丈夫ですか？

山本 いつものことだから。あの二人、超仲悪いんだよ。

森 そっなんですか？

山本 二人とも年は近いみたいんだけどさ、何かってーとぶつかって、言い合いするんだよね。そのたんびに社長が間入ってるんだけどさ。

金子 (にらみ合う二人の間に入り) はいはい、もうやめよー。警察呼びかごうかはまた後で考えるところとして、仕事に戻ろう仕事に。

ネ。し・じ・じ・じです。

黒田、岩崎、持ち場に戻る。

金子 あなたたちも、し・じ・じ・中。だからね。

森 山本 はい

金子 アー、絵理奈ちゃん。ちょっと、森君と代わってくれる？ 森君こっちで、絵理奈ちゃんは向ここの部屋を岩崎さんとやっつて。

山本 えーなんでっすか？

金子 いいから。

山本 ひょっとして、森君が向こつで変なものばっか見つけすべみつからっすか？

金子 いいから行って。

山本 はい。あ、新人。

森 はい？

山本 こっちで社長に怒られても、やめんなよ。

金子 コラ！私は怒りません！

山本 やべ

山本、下手に入る。

金子 じゃあ森君こっちやろうか。とりあえず、このへん片付けてくれる？

森 はい。

二人、しばし無言で片付け作業を行う。

金子 森君、どう？この仕事。やっていけそう？

森 はあ・・・そうですね。大丈夫そうです。

金子 どうかな？みんなは。ちよつと癖があるけど、みんないい人なのよ。絵里奈ちゃんもちよつと口が悪いけど、ちゃんと礼儀とかは知ってる。コだし、黒田さんはちよつとお調子者だけど明るくて人懐っこいし、岩崎さんはちよつと気難しそうだけど、以外と優しいからさ。

森 ちよつとなんかある人が多いですね。あ・・・すみません。ちよつと聞いていいですか？

金子 はい？なに？

森 社長は、なんでこの会社始めたんですか？

金子 うーん、そうねえ・・・私ね、元々、清掃の会社で働いてたの。オフィスとかお店とかのお客さんの所に行って清掃する会社。でも、何年か前から、こういう死んだ人の住んでた所を清掃するって仕事の依頼が増えてきたんだけど、うちの会社はそういう面倒な仕事は嫌がってあまり受けたがらなかったのよ。でも、私はさっしう仕事もこれから増えていくなだからと受けた方がいいんじゃないかって思って、その社長さんに言ったんだけど「女のくせに経営の事口出すな！」って言われて、売言葉に買言葉みだいに言い争っちゃって、そこでやめて、この会社始めたの。

森 へー。

金子 その時ね、私の下で働いてたのが岩崎さんで「金子さんが辞めるなら、私も辞めて手伝います」と言ってくれて、本当にすげえそこを辞めて、この会社と一緒に立ち上げたの。

森 そうだったんですか。

金子 ちよつとしてから、よその清掃会社で働いてた黒田さんも入ってきてさ。だから私達二人、この会社立ち上げてから、いろいろあったわ・・・すんごいゴミ屋敷を一日できれいにしてくれなんて依頼を受けて、三人で夜中まで掃除したり、お客が代金を払わないで逃げちゃって、悔し涙流したり。

森 なんか、大変だったんですね。

金子 ま、私達の苦勞なんて、世の中のどこにでも転がってるようなものなんですよ。さ、どんだんやっつちやおう。



森 はい。

山本、手紙の束を持って出てくる。

山本 社長。こんなのありましたよ。

金子 今度は何？

森 (受け取って手紙ですね。女の人からのみたいです。(読む)「あなたがどんな仕事をしているかは分かりました。私と結婚できないという事も分かりました。でも、私はあなたをお慕いしております。あなたが法律を犯すような仕事をしていようと、警察から追われていようと、私の気持ちは変わりません。そのことは忘れないでいてください」

金子 ……ラブレター？ にしてはちょっと変ね。なんか……

森 犯罪者みたいに言ってますね……

山本 これ絶対じゃないっすか？ 殺し屋確定！って。

金子 いやいやいやあ。でもまだ……

森 犯罪者って知ってたのに黙ってそのままにしておく、後で問題になるんじゃないですか？

金子 いやでもだから、まだ絶対そうとは言い切れないんじゃないの？

黒田 (出てくる)全然ダメだ。ウンともスンとも流れない。ウンコだけに。ハハハ。どうした？

山本 (こっす手紙を渡す)

岩崎 (出てくる)給理奈ちゃん。そっち行ってそのままじゃめ困るよ。こっちの部屋あれだけ散らかってるんだから、さすがにオレ一人でやるの無理だって。

黒田 おいおいコシ。殺し屋に女からの手紙だぞ。

岩崎 (受け取り(手紙?)読む)

黒田 てことは、ロイツは、表向きは販売なんかか鼻ですって言っておいて、裏では殺人の依頼を受けてやるピットマンなんだよ。(この手紙を書いた女はそれを知っちゃったんだろうなあ。それでもあなたを愛していますと、クーツ、なかなか泣ける話じゃないの。

岩崎 まだこんな手紙くらいじゃ分からないだろう。

黒田 相変わらず冷めてるねえ。そんなんだからあれなんじゃないの？……

岩崎 なんだよっ

黒田 なんでもないけどなあ。

岩崎 とにかく、この人が殺し屋だなんだってのはいいからさ、仕事だ仕事。いつまで経っても終わんないぞ。

金子 そうよおー。大家さん、時々様子見に来るって言ってたから、全然片付いてないの見て、キャンセルされるかもしれないわよ。

岩崎 ほら絵理奈ちゃん。こっちな。

山本 マジすかっ。めっちゃ面白くなってきたのに。

黒田 そっだよ。こんな中途半端でいいのかよっ。

森 (頷く)

岩崎 じゃあ、また何か変なものが出てきたら、まずは大家さんに言おう。それでいいだろう？

金子 そうね、そうすることにして、作業に戻りましょう。

岩崎、山本、下手に戻る。

黒田、ドアの中に消える。

金子 ほら、森君もそっちやっつね。

森 はい。

金子、森、作業に戻る。

少しして、上手のドアが開いて、茂が顔を見せる。

茂 どうですか？清掃の具合は？

金子 (営業スマイル) あ、どうも。ええ。順調です。

茂 そう。なら良かったです。なんかあったら言ってお下さいね。例えば、変なものが出てきて、警察に通報してみつか困ってる時とか。

金子 (微妙な表情) ええ……

茂 冗談ですよ冗談。そんなもの出てくるわけではないですよものね。ハハハハ。

金子 (困ったような表情) え、そうですよね。あはははは。

玉田玲子、ドアを開けて急須と湯呑を載せたお盆を持ってくる。

玲子 (大きな声) どうもご苦労様あー。ごめんなさい。コシ、お茶。適当な所で休憩してね。

金子 あ、奥様。まあまあどうもすみません。

玲子 (お盆を金子に渡して) あんた、菅井さんの所に連絡したの？

茂 ああ、あそこか。今戻って連絡しようと思ったんだよ。

玲子　またそんな事言って、どうせ忘れてたんでしょ？この前だって石原さんの所に連絡するの忘れたから、あの人カンカンに怒って、アタシがすみませんすみませんってなんでアタシが謝んなきゃいけないのって思いながら頭下げて。だいたいね、野球の選手名鑑読んで、選手の名前やらどこの学校出身やら何年にどんな成績だったかやら覚えてる暇があったら、仕事の連絡する約束くらい覚えなさいよ。近所でなんて言われているか知ってるの？」あそここの旦那さんは野球の豆知識にしか頭を使わない」なんて言われてんのよ。アタシ恥ずかしくて恥ずかしくて、美容院行くのだったってわざわざバス乗って離れた所に行ってるのよ。わざわざそんな遠くからありがとごさいますなんて美容店の店長さんが行くたんびに「もうこし太郎」ってお菓子くれるのよ。帰りにアタシバス待ちながらそれ食べて、嬉しいやら情けないやらであんだか涙出てきちゃって、大変だったわよ。(金子に)ねえ？

金子　(勢いに気圧されて)・・・！！

玲子　まあいいわ。あのさ、社長さん？

金子　はい。何か？

玲子　大したことじゃないんだけど、あなた、ご結婚とかされてるの？

金子　いええ、ちょっとご縁が遠くて、あいにく独身でして・・・

玲子　じゃあ、お子さんとかは？

茂　(おいおいという表情)

金子　子供ですか？　残念ながら・・・いません。

玲子　ふーん・・・じゃあさ、ほら、若い女の子いたじゃない？　あのこは？　子供とかいるの？

金子　あの子は、まだ結婚もしてませんよ。全然若いですから。

玲子　でも私からみりゃあ、あんただってまだまだ若いわよ。だからがんばれば今からだって結婚も出産も出来るんじゃないの？

金子　いやー、もうそんな若くもありませんから。ホホホホ。

玲子　年だなんだって言っていると、後悔しちゃうわよ。年取ると、言い訳だけはうまくなくなっていくからね。

金子　はあ、そうですね・・・

玲子　とにかく、お部屋きれいにお願いしますよ。高いお金払うんですから。

金子　あ、はい。もちろんです。あのー、ここに住んでた方、お仕事は販売促進員っておっしゃってましたよね？

玲子　登坂さんの仕事？　ああ。ここに入った時の書類に書いてあっただけだから、本当はどうだかわかんないけどね。

金子　そうですね。

玲子　まあ、留守ん時多かったよ。仕事が終わって帰ってくるのも夜遅くが多かったねえ。一回仕事の帰った時にそこで会ったけど、

もう疲れ切った顔しちゃってさ。

金子　あの・・・お一人だったんですね？何か、訪ねてくる人とかは・・・例えば女の人とか・・・

玲子　ないない。こう言っちゃかわいそうだけどさ、見た目、女にモテる感じの人じゃなかったねえ。

茂 あ、なんか、仕事の依頼が多くて大変だとか言ってた事があって。

金子 仕事！

玲子 あら、そんな事言ってたの？

茂 ああ。一度、朝早い時間に帰ってきた時があって、散歩しようとした私とばかり会ったんですよ。大きな旅行用のバッグ持って、疲れた顔で階段登ろうとしたから、仕事お忙しそうですねって声かけたら、最近仕事の依頼が多くてとか言ってたなあ。

玲子 そう言えばさ、目つきの悪くて体の大きい男の人が二人で玄関に尋ねてきたことがあったわねえ。登坂さん今いないですよって言ったら、そうですかっすく帰っちゃったけど。

金子 そんな事が・・・

玲子 ま、片付けの方よろしくお願いしますね。ほらアンタ、帰ったらなにするんだっけ？

茂 えっなにっって・・・

玲子 もう忘れてるわ。全くもう。ホラホラ(茂の尻を叩く)

茂 痛いって。痛いよ。

茂と玲子、去る。

金子 おっかない奥さん。

森 そんな事より、今の話って、やっぱりそうなんじゃないですか？

金子 いやまだ・・・仕事の依頼って、販売員でも仕事の依頼はあるんじゃないの？

森 じゃあ、目つきの悪い男達ってどうです？きくと、自分とてころの組長をやられたヤクザとかが、復讐しにきたんですよ。

山本、人生ゲームの箱を持って出てくる。

続いて若崎も出てくる。

山本 (大きい声で)話しは聞きましたよ。

金子 絵里奈ちゃん何？びっくりしたあ。話して、さっきの大家さんの？

山本 はい。あんただけでかい声でしたから、聞くしかないっすよ。しかもよく喋るばあさんでしたわ。

金子 全然働いてないじゃないの。

山本 それより、もう絶対殺し屋でしょ？ 決まりっすよね？

金子 だからさ、そんなの分からないでしょう。

山本 だって、警察庁長官撃ったメモがあって、銃があって、仕事の依頼があって、目つきの悪い男が来るんすよ。もうリーチ確定ですよ。  
黒田 (ドアを開けて大声で) だから俺もそう思うって。

金子 何？ 黒田さん。トイレ終わったの？

黒田 終わってません。でも大家さんの話しは聞いてました。ドアにこうやって。

金子 誰も仕事してないじゃないの。

山本 (箱を出して) これ見てくださいよこれ。

金子 これって、人生ゲームじゃないの。

山本 中見てくださいって。

金子、しぶしぶ箱をテーブルに置いて開けてみる。

金子 ちょっと古いけど・・・普通の人生ゲームなんじゃないの？

山本 その下っス。

金子 下っ。

山本 そのゲームの下。

金子、ゲーム盤を持ち上げると、写真が三枚と封筒に入った手紙が一通ある。

金子 (手に取り) なにこれ？写真と手紙？(写真を手に取り)・・・登坂さんの若い頃？と・・・この人、奥さんみたいな人と、小学生の女の子。

山本 家族写真っスよね？どこかの水族館みたいなトコで撮った。

金子 そうみたいね。

山本 そういつ写真を、こんな人生ゲームの下に隠します？隠さないでしょ？普通。だから、そういう田付きの悪い男とかにその写真を見られると、どこかにいる奥さんや子供が巻き込まれて誘拐されたりするから、こうやって隠してたんすよ。どうすか？

黒田 確かにそれっぽい。て言うかそのまんまそうだよな。

山本 でしょ？

森 これ、やっぱり、警察に連絡ですよ。いろいろ調べるのは警察がやると思いますので。

金子 ちょっと待とうよみんな。落ち着こうよ。まだそうって決まったわけじゃないんだから。ねえ岩崎さん？

岩崎 (考え込んでいる)

金子 あれっ？岩崎さん？

岩崎 ……「これまでいろいろ出てきたやつと、さすがに

金子 ちょっと岩崎さん？しっかりして。あなたまでそうなっちゃうと

岩崎 ……大家さん、1階にいるんだよね？私が説明してきます。(上手ドアに向かう)

金子 ちよ、ちよっと待って。おかしいって。まだ分らないんだから。

黒田 じゃあ社長、なんで社長はこんな殺し屋の肩を持つんですか？

金子 肩を持つってわけじゃないけど…

黒田 コイツは、販売員なんて言っておいて、頼まれたら人を殺す殺し屋ですよ。社会の害悪です。世間から見たら、悪事しかやってないんです。でも殺し屋さんって言っても、悪いヤツを殺したりもするんじゃないスカ？

森 そうですよ。裁判で無罪になった犯罪者とかを、被害者遺族からの依頼で殺すとか。

山本 そつそつ。

黒田 ハ。そんなマンガみたいなカッコいいもんかよ。いいか？この殺し屋さんはね、人を殺して、あんな手紙もらうくらい女にモテて、この女には自分の職業を隠して結婚したりしてるんだよ。なんでこんな見た目大したことなくて、殺し屋さんやってる奴がそんなモテたんだよ。

岩崎 殺し屋さんとモテる事は関係ないだろう。

黒田 いいや。どう見ても、こんな俺とどっこいどっこいな男がそんなモテるなんて納得いかない。

岩崎 だからそれは殺し屋さんとは関係ないって言ってるんだ。

金子 どうでもいいけど、何でみんな「殺し屋さん」って呼んでるのかな？「登坂さん」だからね。

山本 女は、そういう危険な仕事をする男に憧れるもんなんスよ。

金子 それは言い切れないんじゃないのかなあ。

森 僕も、殺し屋さんの美人の女性とかいたら憧れます。

金子 それもちよっと違うねえ。

黒田 とにかく、オシはこの殺し屋野郎なんか認めねえ。こんなヤツは白田の元にさらけ出して、世間からボロクソ言われりゃあいんだよ。

岩崎 だからそつそついう事で殺し屋さんを世間にさらけ出すってのは違うんじゃないかって言ってるんだよ。そつしたら、この写真で写ってる女性はどうなる？この女の子はどうなる？この二人にまで、悲しい思いさせるのは絶対に違うだろう？

黒田 (一瞬間をおいて)すいびん肩入れなまねを岩崎さん。やっほり自分と重なるからどうですか？

金子 黒田ねー！

岩崎 そつそついうことじゃないんだよ。

黒田 へー、そうですか。ちょうどいいや。新人の森君にも知っといてもらった方がいいやな。この岩崎先輩はな、実は結婚して娘さんが一人いるんだよ。

金子 黒田さんちよっ！

黒田 それでな、旦那さんがこっちの仕事を熱心にやってるうちに、奥さんは奥さんで自分の職場のお得意さんの男の人と仲良くなって、その人と子供が出来ちゃったんだ。

金子 黒田さんもうやめなさい！

黒田 他の男とのコを妊娠した奥さんに別れてくださいって泣きつかれて、言われるがままに離婚したんだよな？ 奥さんと娘はその男の方に行って、新しく産まれた子供と一緒に向こうは家族四人で仲良くやって、あんたは淋しい男の一人暮らしだ。

金子 (大声で)黒田さあん！

沈黙。

森 (山本に)本当なんですか？

山本 (うなづく)

森 ええええ？

岩崎 ……気が済んだか？なら良かった。とにかく、この写真は、表ざたにしない。それでいいな？  
山本 ぜってー怒ると思った。  
森 大人ですね。

黒田 それじゃあ……岩崎さん、アンタさ、下の名前が「富多」っていうんだよな？

岩崎 確かにそつだ。「富が多い」と書いて「富多」って名前だが？

黒田 フルネームが、岩崎 富多。これ、両方とも姓みたいでややこしいだろう？

岩崎 そうだな。クラスに「富田」って女の子がいたけど、友達が「とみだー」って呼ぶとその子が振り向いてたな。  
黒田 だろ？ その名前、なんかへーんなの。変な名前。  
山本 マジかよ。名前で責めてきた。

森 小学生？

岩崎 (冷静に)そついうのは、小学校とかで散々言われてきたな。久しぶりに言われたよ。

黒田 あ、そ。でも、やっぱおかしいよ。へーんなの。へーんだよ。

岩崎 (黒田に対し軽く苦笑して)じゃあ社長。大家さんに話して来ます。

金子 ……(あきらめたように)はい。

岩崎 (ドアに向かう)

黒田 待ちなよーあんた……確か相鉄沿線に住んでたよな？

岩崎  
そうだが？

黒田  
相鉄線のあの「そうじゃん」ってゆるキャラは、なんだいあれ？なんで猫なの？たいして可愛くもねえし。二本脚で立つし。  
あんなんで女子供の人気取ろうとしているの？バツカじゃねえの？

悔しさで、変なトコ責めだしたよ。

森  
でもそんなの岩崎さん、大人の対応で……

岩崎  
(何かを耐えている)

森  
アし？

黒田  
だいたい鉄道会社がなんであんなの作るの？無駄だよな？あんなの大してかわいくなんかねえし。

岩崎  
く、黒田ー！「そうじゃん」をバカにするな！お前が「そうじゃん」の何を知ってるんだ！

山本  
マジギし？

岩崎  
ゆるキャラグランプリでも上位に行くんだ！「そうじゃんグッズ」だって売れてるんだ！だいたい、お前みたいな部外者がな、

「そうじゃん」について、偉そうに喋る権利なんか無い！

黒田  
だいたい名前だってな、相鉄の「そう」に「じゃん」をくっつけただけじゃないか。何だそのネーミングセンスは。

岩崎  
そんなどうでもいいことで「そうじゃん」を侮辱するヤツは許さんー！「そうじゃん」はもつ完成されたものなんだ！我々相鉄沿線の住民は、  
電車に乗るたびに「そうじゃん」を見て癒されているんだ。

森  
奥さんの時とは違って、だいぶ熱くなってませんか？

山本  
こりゃツボったんじゃない？

森  
ツボって？

山本  
怒りのツボ

黒田  
そんなのね、我々JR使ってる者には関係ありません。

岩崎  
JRなんて、「スイカ」のペンギンがいます当たり前じゃなかったから悔しいんだろっ！

黒田  
へー。つい最近まで「上つても横浜駅」だった私鉄が偉そうなこと言っただよ。

岩崎  
今はいろんな沿線と繋がったんだ。お前らJRこそ、偉そうに殿様商売しやがって！

黒田  
JRはね、なんてたって「元国鉄」ですからね。国がやってたんだから、王道なんですよ。神奈川の片隅でチマチマやってる私鉄と  
なんて勝負になりませ〜ん。

岩崎  
その謙虚さがいいて言う鉄道ファンもたくさんいるんだ。

山本  
これなんのケンカ？

森  
だいぶずれましたね。

金子  
はいはいもつJRと相鉄のケンカはおしまい。にしましよ。じゃあとりあえず、仕事を全部終わらせて、それからきえまじょう。



《寝床を押し出す》

黒田、岩崎、にらみ合っていた視線を外す。

F・O

第三幕

前景から10分後。

森が床に座ってペットボトルのお茶を飲んでいる。そのそばに金子が座って、何かを読んでいる。金子の近くにはお茶の水筒がある。

森 ……さっきから、何読んでいるんですか？

金子 ああこれ？ほら、人生ゲームの下に、写真と一緒に入ってた手紙。

森 ああ。殺し屋さん宛ての手紙？ どんな内容だったんです？やっぱり、殺人の仕事の依頼とか…

金子 (微笑みながらそんなもんじゃないわよ。(手紙をポケットに入れながらうーん…なんかね、みんなが言っ

とおりにもし、もしよ。殺し屋だったとしても、悪い人なのかいい人なのか分からなくなるような事が書いてある手紙…かなあ。  
へー。

山本、ドアから入ってくる。

山本 戻りましたあ。

金子 ちゃんと大家さんに断った？

山本 あ、黒田さんが「タバコ吸いたいんですけど、どこで吸えばいいですか」って聞きました。

「そのへんどこでも好きなトコで吸いなさいヨ。アタシも吸ってるし」って奥さん言ってくれましたんで、アパートの隣のへんで吸ってました。

金子 そう。なら良かった。

山本 しっかりと、岩崎さんと黒田さん、タバコ吸いながらそっちとこっち向いてお互い目も合わさないように吸ってるから、まあじ雲田気悪かったっスよ。どうにかなんないスかあの二人？

金子 まあ、いつもの事だからね。

森 いつもケンカしてるんですか？

金子 よくやるのよ。一番くだらなかつたのは、掃除の洗剤を溶かすのは何色のバケツでするかって争い。岩崎さんは洗剤II青だと言って、黒田さんは洗剤II白だと言ってどっちも譲らずに。結局、ちようち中間の、水色のバケツ買ったわよ。

森 (思わずくだらな。

山本 新人、こんな先輩たちで嫌になってやめんなよ。  
森 はい。

岩崎、ドアを開けて入ってくる。

岩崎 戻りました。

黒田、間髪入れず、続けて入ってくる。

黒田 戻りましたあー。

岩崎 絵里奈ちゃん。続きやるよ。

山本 はいいす

岩崎と山本は下手の入り口に入っていく。

黒田は、またユニットバスのドアに入る。

金子 じゃあ森君。私達もやるっか？

森 はい。

金子、森、掃除機を動かしたり、床を磨いたりと作業に戻る。

金子 ……森君は、なんでこの仕事やるうって考えたの？

森 僕ですか？えーと…人間を知りたいなって思って…こういう現場って、その人の生き様みたいなものがモロに出るのかなあとか…僕、実は自分が人についてよく知らないんじゃないかな？とかある日ふと思っちゃって…

金子 ふうん…  
森 あ、なんかすいません。こういうのって、「くくなった人のお部屋をきれいにして、お客さんに喜んでもらいたい」とか言った方がいいんですよね？

金子 ああ。べつにそんないいのいいのよ。面接じゃないんだから。まあ、こういうのは普通、面接の時に聞くものよね？

森 そう言えば、そういう事聞かれましたよね？ 面接行ったら、社長に「いつから来る？」っていきなり聞かれて。(笑)黒田さん



山本 あー。サインボールってヤツみたい。岩崎さんが言ってたわ。(また森に投げて、森も受け取り投げ返す。3回ほどキャッチボールする)  
金子 ちよっともつやめなさいって。

山本 大丈夫っすよ。アタシ、弟とよくやってたから。

金子 そういふ事を心配してるわけじゃなくてね。とにかく、仕事中はキャッチボールするのは禁止！

山本 はい。

森 (ボール見ながら)「これ・・・誰のサインなぞでしょっ？」

山本 さーねー。

黒田、深刻そうな顔でドアから出てくる。

金子 黒田さん、大丈夫？流れた？

黒田 (首を振って)ダメですね。ちよっと・・・道具取ってきます。(上手のドアから出ていく)

金子 大丈夫かしら・・・

山本 (ドアの中に入って、すぐ出てきて)ヤバイっすよ。便器の中、さっきより汚ねえ水がたまっていますよ。

金子 やっぱ水道屋さんに頼まないとダメかしら。

黒田、棒状の長くて変な形の道具を持って戻ってくる。

黒田 (部屋に行きながら)ハイハイ危ないよー。

山本 そんなのありましたっけ？

黒田 (こつこつ時の為に作っておいたんだよ。「クロダスペシャル」って何でも呼ぼうか。(ドアの中に入っていく)

岩崎 (下手から顔だけ出して)絵里奈ちゃん。(こつこつまだ終わってないよ。

山本 (不服そうに)はい。(ボールを森に渡す)

金子 じゃあ森君。こつこつ早く片付けて、向こう手伝っちゃおう。

森 はい。(ボールをポケットに入れる。作業をしよつことして気づきこの「人生ゲーム」どうしましようか？

金子 ああそれか。廃棄だね。!!!

森 はい(「ミ袋に入れながら)でも・・・何でなんでしょっ？

金子 なにが？

森 いえ。六〇過ぎたいい年の男の人の一人暮らしで、なんで「人生ゲーム」なんかあるんですか？まさか、友達が来たら一緒にやるため。



茂　ごめんなさい。

玲子　電話だよ。信用組合から。

茂　はい！(出て行く)out phone

玲子　ちよい待ち！アタシのことを「クソ喋りババ」って言ってんのは、近所の誰だい？

茂　いやそんな、人を売るような真似は・・・私は出来ない。

玲子　そんなカッコいいセリフ聞いてんじゃなくて、だれなんだって聞いてるんだよ！

茂　やまけんです。

玲子　せんべい屋の「やまけん」か。あのヤロウ。

茂　じゃあ、私は行きますので、後はよろしく。

玲子　あ、待て！「ララ」！

茂、逃げるように出て行く。

玲子、舌打ちする。

金子　あ、あのすいません。

玲子　はい？

金子　あの、ここにいた登坂さんって方。その方の遺品とかは、ご家族が親戚の方にお渡ししないといけないとかはありますか？

玲子　もしそうなら、廃棄するものと分けておかないといけないので。

金子　さあ・・・親戚・・・そんな話し聞いた事無かったわね。家族ってのも一回も見だこと無かったし。もしいるなら、遺品みたいなものを

渡すかわりに、あなた達への掃除代金払ってほしいわよね。かなりするんだからさ。

玲子　そう、ですわねえ。

金子　あ、あなた、私達の事見て「ああ結婚してこんなんかばっかするんなら一人の方がマシね」とか思ってんじゃないの？

玲子　いえいえ、思ってませんよ。

金子　いいのよ。近所の人たちもみんな「あそこはなんで一緒にあってんだ」くらいに思っているんだから。そう思うのが普通よ。

玲子　はあ。そうですか。(慌てて)だから思ってませんよ。

金子　でもアしね。私から言わせてもらうと、「美男美女で周りからもつらやましがられる」夫婦「なんてよく言われるじゃない。

玲子　あんなのだって、その夫婦にしか分からない悩みとか嫌な所とかたくさんあるのよ。ただ表面に見えないだけで。

金子　だから・・・結婚とか夫婦なんて偉そうに言ってるけど、どこもそんなもんよね。大したもんじゃないわ。

玲子　はあ・・・大変ですね。結婚っていうのも。それで、登坂さんの遺品は、どうしますっ？

玲子 あー、そうだね。そういうものが出てきさ、取っといてもしょうがないから全部ゴミで持ってってください。じゃ、お願いしますね。  
玲子、去る。

金子 森君。

森 はい。

金子 悪いだけとさ、あっちの岩崎さんに、遺品なしで全部廃棄です。って伝えてきてくれる。

森 遺品なしで全部廃棄。ですね？ 分かりました。

金子 お願いね。

森 下手入口の中に入っていく。

金子、少し自分の時間を取ってから、おもむろにゴミ袋に入った「人生ゲーム」を袋から取り出して、少しの間眺めている。  
森が下手入り口から入ってくる。

森 伝えてきました。

金子 ああ。ありがとうね。

森 廃棄って、結局ゴミにしちゃうんですね。全部。

金子 まあ、しょうがないよ。

森 なんか、この写真だけでも、写ってる奥さんが娘さんに渡せればいいんですけど。

金子 うーん・・・まあ、そういう感傷にひたっていてもキリが無いからね。

黒田、突然「クロダスペシャル」を持ってドアから出てくる。

黒田 (大声で) ああクソ！こんなもの、長いだけでなんの役にも立ちやしねえ！ダメだ全然！だいたいさ、なーんで俺が殺し屋ヤロウの詰まったクソの後始末、やらなきゃなんないんだヨ！なあ森君？おかしいよな実際。

金子 黒田さん、だから、まだ殺し屋なのかは分からないって話になったでしょう？

黒田 あ、じゃやっぱり社長は、「ここにいた男が」殺し屋じゃなくていい人だった「って意見なんですね？たてつくらうで申し訳ありませんけど、こここの男はやっぱりろくでもないですよ。ヒツシの皮を被った狼みたいに、このアパートでひっそり過しながら、人を殺してたんです。そんな男が詰まらせたツイシの後始末を、なんで俺みたいなのも悪い事してないヤツがやらなきゃならないんです？



金子 (ポケットから手紙を出して)黒田さん。これ、読んでみなさいよ。

黒田 (受け取って読む。)

金子 その手紙はね、井上って人が、「自分が店を持ったための借金の保証人になってくれた登坂さんに、店を潰してしまっすみません。」って事が書いてあるのよ。どう?そんな悪い人だったら他人の保証人になんかなろうとしないでしょう? たぶん登坂さんは、店を持ちたいって同じ販売員の仲間を応援したくて、すすんで保証人になったのよ。でもその同僚は店を潰してしまって、保証人である登坂さんには多額の借金を負わせてしまった。殺し屋が仲間の為に保証人になんてなる?

黒田 いやでも殺し屋だって保証人くらいにはなるんじゃないですか?あ待てよ。じゃあ、その多額の借金を返す為に、報酬の高い殺しの仕事を請け負うようになった。どうです?コシ?筋道的にはあってませんか?

金子 なんてそんなにこの人の事を悪人にしたいの?

黒田 いや、そんな個人的な感情なんてありませんよ。ただ、世間一般の考え的に、冷静に考慮して、悪人になるってだけです。

黒田 そういふ社長は、なんでそんなにこの男をかばうんです?ひょっとして、好きな顔ですか? あーこういうタイプが好みなんですか? そんなこと言わないでしよう!

黒田 大体さ、社長は、ちょっとカッコいい男のお客さんだと、すぐに態度に出てニコニコ愛想よくなるんだから。見てると困っちゃうよな。あ、アタシがいつニコニコしたのよ?

黒田 じゃあ、言わせてもらいますと、こないだの金沢区の現場。すげえ汚くてどう見たってDランクだったのに、Oランクにしたでしょう? 岩崎もあの見積もりはおかしいって言ってましたよ。あれって、大家さんの息子がイイ男で、37歳で独身だったっていうの聞いたからでしょう?

金子 そんな事はないでしょう!私がそんな公私混同みたいなこと……

黒田 してましたよ。あとね、私だっただけで殺し屋って言うわけじゃないんですよ。証拠があったんです。コシです。

(何か小さい物を出す)

金子 ナニこれ?(受け取って)……(森に渡して)コシ、分かる?

森 なんかの……弾みたいですね。

黒田 それ、拳銃の弾ですよ。トイレの床に落ちてました。どうです?トイレでも銃を持ってなきゃいけないくらい、心底からの殺し屋なんですよ。この男は。社長がなんと言おうと、こいつは犯罪者なんですヨ。

金子 ……じゃあさ、私の考え、言っている?

黒田 どうぞ。

金子 あのね……人ってさ、あの人はいい人だとか嫌な人だとか平気で言ってるけど、そんなに簡単にいいの悪いのって区別できないんじゃないかって思うのよ。いい人の中にも悪い部分ってあるし、嫌な奴だと思ってる人でも、とっても優しい部分があったりして……

黒田 ……結局、何が言いたいんです?

金子 私たちはね、登坂さんって人が生きてる時、会った事も喋った事もないんだから、そんな偉そうにジャッジする権利なんか無いのよ。私達は、亡くなった方のご冥福を祈って、出来るだけきれいにお部屋を掃除する。ただそれだけなの。

金子 ……それだけですか。じゃあ俺たちって、ただのお掃除屋さんなんですか？  
そうよ。偉くもない、ただのお掃除屋さんよ。それで何が悪いの？ でもね、この社会の中で、こうやって身寄りが無くて一人ぼっちで亡くなっちゃう人は必ずいるの。誰かがその後始末をしないとイケないの。それが、私たちの仕事なのよ。この社会での役割なのよ。

黒田 ……

金子 ……どんな悪人でも、どんなに嫌われている人でも、私は掃除します。だって……お掃除屋さんなんだもの。

黒田 ……

岩崎と山本、下手入り口から出てくる。

岩崎 どうしたんですか？ 何か、大きい声がしましたけど

金子 別に、何でもないのよ。

岩崎 (黒田)にうつしたんだ？

黒田 ……別に、なんでもないよ。

黒田、まだドアの中に入っていく。

顔を見合わせ小首をかしげる岩崎と山本

F・O

第四幕

岩崎と山本と金子と森、中央で輪になって座っている。

岩崎 ……なるほどねえ。

山本 新人。こんなもめ事あったからって、やめんよ。

森 やめませんよ。

山本 でもマジすごいですね。殺し屋で女にモテて結婚して借金保証人になってトイレにピストルの弾あってって、いろいろやってくねちゃって、もう何がなにやら分からなくないっすか？

金子 ちょっと、ここまでいろいろ出る人も珍しいわよねえ。たいてい一個か二個は「なんでこの人がコシ持ってるの？」とかあるけど。

森 そうなんですか？ 例えはどんな？

金子 そうね・・・元警察官だった男の人の家から、ミニのスカートがたくさん出てきたり、厳格な古文の教授だった人の家から

山本 「ももいろクローバーZ」のグッズやライブDVDがたくさん出てきたり。

金子 そういう変なもの出てくるのって、男の人の方が多いっすよね？

山本 女の人だってすごいんじゃない。ホラ、藤沢のあのマンションの・・・

チャイムが鳴る。

金子 はい。誰かしら？ 大家さんはピンポン押さないはずだけど・・・

金子、ドアを開けると、野上真知子と野上幸雄が立っている。野上真知子は妊娠7カ月である。

幸雄 あの・・・突然すみません。ここって、登坂幸平の住んでいた部屋ですか？

金子 そうです・・・けど・・・

真知子 私、あの・・・登坂幸平の娘の、野上真知子と言います。あと、夫なんですけど。

幸雄 どうも。

金子 どうも。

真知子 あの、すみません。生前、父がお世話になりました。

金子 あー・・・娘さん？ そうなんですか。私達、大家さんに依頼された清掃会社の者でして、そんな、お父様のお世話をしたわけでは

ないんですよ。

岩崎 とりあえず、どうぞ。中に入ってください。

真知子 はあ。すみません。失礼します。

真知子と幸雄、部屋に入る。幸雄は真知子の身を心配しながら。

真知子 こんな所に住んでたんですね。初めて来ました。

金子 あの・・・失礼ですが、お父様とはあまり会ってなかったんですか？

真知子 ええ。かれこれ20年会ってませんでした。

金子 そんなに・・・

真知子 はい。私が小学生の時に、両親が離婚しましたから。

森 じゃあ、この写真って・・・(写真を見せる)

真知子 ・・・・これ、私です。家族で水族館に行った時の写真です。うわー懐かしい・・・私、母の連れ子だったんです。母は父とは再婚で・・・お父さん、週末の休みの日が稼ぎ時で、いない時が多かったですけど、たまに休みだったら必ずどこかに連れてってってくれました。この写真もその時のです。

岩崎 それなら、お父さんと暮らしたのは、何年くらい？

真知子 ・・・・三年くらいです。でもとっても楽しかった。血は繋がっていませんでしたが、父にはとっても優しくしてもらってたんです。

岩崎 私の実の父親は、まだ私が赤ん坊の頃に母と別れてそれっきりで・・・だから、私にとっては本当のお父さんみたいでした。  
(少し感きわまった感じで)そうなんですね。

黒田、ドアから出てくる

黒田 全然ダメだ。どんだけ詰まってるんだ、うんこ。(岩崎に)さっき、ピンポン鳴ってたけど、誰？

山本 (シーとしてから野上夫妻を指す)

幸雄 すいません。お邪魔しています。

黒田 どうも。あ、大家さんの息子さんですか？ と、その奥さん？(何か察して微笑んで)社長、残念でしたね。今回も。

金子 ちがう！バカ！

山本 登坂さんの娘さんっす。

黒田 エーじゃああの殺し屋の？



黒田 昔見た、ナチスドイツの映画で同じような場面見たぞ。逃げたユダヤ人を探す場面だったけど。

金子 (真知子と幸雄にあ、あの方は、この大家さんの奥さん。で、大家さんが、あちらに。)

茂 (顔を出していなくなるのかもしれませんが、いないと分かるかと安心してイヤ、すみませんお騒がせしちゃって。イエネ、私はこの選手名鑑をただ読んでただけなんですけど、まあた例によつて「そんなもんじゃない。掃除とかやる事あるだろ」とか言ってるもんですから、「うんぬん」って一言言ったら、怒って追いかけてきたんですよ。

金子 大変ですなえ。

山本 別れちゃえばいいの。

黒田 コラ！

茂 あのー・・・私、もう少し向こうの部屋で隠れさせてもらっていいですか？お掃除のじゃまはしませんので。

岩崎 あー、向こうはもうほとんど終わってますので、大丈夫ですよ。

茂 じゃあすみません。すみません。(行くとして)あ、もしですけど、またアしが探しに来たら、教えてもらえませんか？  
押し入れにでも隠れますんで。

岩崎 じゃあ・・・どうやって教えまじゅう？

茂 そうですね・・・トンントンと三回ノックしてください。それじゃ、お願いします。(下手に去る)

金子 えーと、何の話だったっけ？あ、大家さんに挨拶まだでしたよね？

真知子 ええ。あの状況じゃ、ちょっと・・・

金子 じゃあ今声掛けますんで。(下手に行こうとする)

山本 (金子を制して)アタシが声かけますー！

金子 あら、ありがとうございます。

山本 (下手に行き、三回ノックして、すぐに覗きながらうわ、慌てて押し入れに隠れましたよ。うける。

黒田 コラだめだろ。オシがやるよ。(山本をどかし、ノックとして、ノックを三回した後で覗くアハハハ。出ようとしたところで、また押し入れの中に引っ込んだ。ヤドカリだヤドカリ。

金子 もうぶざけちゃダメでしょ。もう。(黒田をどかし、ノックとして、ノックを三回した後で覗くアハハハ。押し入れの上の段に入ろうとして、落ちた。(腹を抱えて笑))

岩崎 もう、社長！(下手にすみません)大家さん、奥様もういないんで大丈夫ですよ。

茂、腰を押さえながら出てくる。

金子 あ、こちら、登坂さんの娘さん。と、旦那さんです。

真知子と幸雄、頭を下げる。

茂、それに「どうも」と会釈して返す。

真知子 すみません。生前父がお世話になりました……

茂 いえいえ。そんな事ありません。こちらは大した事も出来なかったのです。

真知子 あの、それで……父の持ち物を何か、遺品として持ち帰らせて頂きたいと思っております。

茂 あー、そうですね……私は別に構わないんですけど、さっき見てたと思いますが、うちのがなんて言うか……まあ、下の階にいるので、そっちに言ってもらえますか？

真知子 はい……

茂 じゃあ私はこっちで、口し読んでますので。

茂、下手に去る。

真知子、体調が悪くなったのか、フッと座り込んでしまう。

幸雄 (心配そうに)大丈夫？

金子 大丈夫ですか？

真知子 ……コメン。平気だから。(金子に)すみません。

金子 あ……お腹。何か月くらいでっ

真知子 ああ……七カ月です。子供が出来たって分かった時、どうしてもお父さんに伝えたいなあと考えて、興信所をお願いして居場所を探してもらったんです。そうしたら、居場所が見つかった直前に死んだって分かって……

それは……残念でしたね。

彼女は最近あまり体調が良くないので、私は行くのを反対したんですが、どうしても行くって聞かなくて。

金子 そうですか。そのままでしてくれて、お父様、喜んでいらっしやると思いますよ。

森 (全く空気を読まずに)すみません。娘さんは、お父さんのお仕事については、どう思ってるんですか？

金子 森くん！かなり強めに引っ張って厳しい顔をして森くん！森君ねえ！

真知子 父の仕事……ですか？販売なんかか員……でしたよね？どうと言われましても……大変だとは思ってました。あっちこっちのデパート行って売らないといけないって話を聞いてましたので。

森 (また真知子に近寄って)それが表の仕事で、裏は裏の仕事があるとしたらどうですか？

真知子 はい、裏？

森 そつです。例えば、1995年の警察庁長官射殺事件に関わっていたとか？

金子 (かなりの慌てて引く張って森君森君森君。何を言ってるのかしら・・・)

黒田 イヤ。でも、黙ってるより、本当の事を知っておいた方が、娘さんの為にも・・・

真知子 あの・・・ちょっとよく分からないんですけど・・・

黒田 すみませんがはっきり言いますよ。あの、あなたのお父さんがね、実はね・・・

岩崎 (遮っていいえ。別に何も知りませんよ私たちは)

山本 (なほりとお父さん、殺し屋だったんすよ)

真知子 ……エ？

山本 本当っす。銃もあつたし、警察庁の長官だかなんたかを撃つたって書いてあるもんもあつたし。あ、殺し屋宛ての、女の人からの手紙も

あつたっす。お父さん、モテモテっすね？

真知子 ……ええ？エエ？エ？…(皆の顔を見渡す)

皆、「実はなつたんだ」と言つてつうつうなひく。

真知子 (顔を手でおおって、うつむいてしまふ)

幸雄 オイ！大丈夫かい？

金子 ああ・・・

黒田 ちよおつとショックだったかな？

森 でも知らないよりは、知ってた方がいいです。

山本 衝撃的事実ってヤツ？

金子 あ、あのね、別にそんな悪い人じゃないと思うのよ。それに、あなたやお母さんと出会う、だいぶ前の話だったって可能性もあるし・・・

真知子 (うつむいていたが、いつの間にかフツフと笑い声になり、おかしくてたまらないという感で笑ってしまっている)

岩崎 娘さん、だ、大丈夫ですか？

黒田 ショックがでかすぎたんだ。

山本 マジやべ

岩崎 どうすんだよ？ お前たちのせいだぞ。

黒田 俺たちが悪いんじゃないだろう？ 悪いのは殺し屋やってたヤツであつて・・・

森 「悲しいけど、これ戦争なのよね。」



岩崎　なんだそれ？

森　ガンダムの名セリフです。

岩崎　今言うことじゃないだろ？

森　なんか、この状況にあってるかなと思って・・・

金子　娘さん、あの・・・大丈夫？

真知子　(笑いをおさめて)ああ、すみません。いえ、それじゃあ皆さんがいろいろ見つけたんだと思ったら、なんだかおかしくなっちゃって・・・

岩崎　じゃあ・・・あなた知ってたんですか？

真知子　ええ。と言うより、そのへんの話は父から聞いてました。

黒田　グー普通そんなこと子供に話すかね？

山本　激ヤバじゃん。

真知子　いえいえ、ちがうですよ。私が聞いてたのは、父の小説の話です。

金子　小説？

真知子　はい。父、小説書くのが趣味で、コツコツ書いては小説のコンクールみたいなものに応募したりしてたんです。「警視庁長官狙撃事件」も、

なんかいろいろ興味があつたみたいで、それを題材に書きたいんだみたいなことは聞きました。

黒田　(下手の入口に入り、ノートを持ってくる)

岩崎　それじゃあ、俺達が見たものは・・・

真知子　たぶん、その書きかけかなんかあったんじゃないですか？

黒田　これこれと渡す

真知子　(ノートを見て)ああそうそう。なんか、あの事件の犯人を主人公に書くって言ってました。事件が未解決だから、創作意欲を掻き立てられる。みたいなこと言ってました。

森　じゃあ、銃は？　銃が出てきたんですけど？

真知子　モデルガンかなんかじゃないですか？　その主人公の気持ちに近づくためとか・・・

黒田　だったら、この女の人からの手紙は・・・

真知子　(手紙を見てもう一度噴き出す)これ、父の書いた字です。

5人　え？

真知子　たぶん、その主人公に恋人がいたら・・・とかなんとか考えたんじゃないですか？小説書く人って、何考えてんのかよくわかりませんよね？

金子　そっかぁー。やっぱり、そんなことじゃないかなって私は思ったのよねえー！

岩崎　警察とか呼んでたら、危うく大恥かくことでしたね。

真知子　すみません。お騒がせしっちゃったみたいで。

金子 いえいえ。こっちが勝手に騒いでただけですから。

真知子 ただ・・・母から聞いたんですけど、父がなぜ離婚したのかはよくわからないそうです。母が何度聞いても、教えてくれないから。読んでみて。

金子 あ！ポケットから手紙を出してこれ、読んでみてくれな。

真知子 なんですかこれ？

金子 いいから。読んでみて。

真知子 (読み始める)

金子 それね、このゲームの中に入ってたの。井上さんって人から。知ってる？

真知子 さあ・・・聞いたことありません。

金子 その井上さんって人からの手紙。

真知子 (読む)保証人・・・借金？

金子 知ってた？

真知子 いえ。

金子 これは私の想像だけだね、お父さん、借金背負ってしまって、お母さんやあなたにその借金で迷惑かけないために、離婚してくれて言ったんじゃないかなあ？

真知子 ……

金子 ここにも借金取りみたいな男が何度か来てたみたいだしね。

真知子 (手紙を握りしめて)・・・お父さん。

森 ……僕たち、すっごい勘違いしてたみたいですね。

岩崎 ああ。いい・・・お父さんだったん・・・ですね(目頭をおさえる)

黒田 (岩崎の肩をただいて、ハンカチを渡す)そうみたいだな。

岩崎 黒田・・・ありがとう涙をハンカチでふく

黒田 それな、便所掃除の手を拭いたヤツ

岩崎 ばかやろう

黒田、笑う。つられて、森、岩崎、金子も笑う。真知子も笑う。なんかハッピーエンドのいい雰囲気である。が、山本と幸雄は笑っていない。

山本 なーんかおかしくないっすか？

(みな笑いが止まる)

山本　ちょっとよく出来すぎっか・・・なんか引かかるとは思いませんよ。なんか、いい話過ぎませんか？借金で迷惑かけないように離婚を  
したなんて。

金子　でもさ、そういういい話だって、時々世の中にはあると思うんだよね。

山本　いやでもあんか・・・アタシの父親なんですけど、よそで女作って、アタシと弟と母親捨てて、向こうでうとうと暮らしてるんす。  
アタシ達が生きてくのにどんだけ苦労してたかも知らないで。だからなんか、信じられないっか。

金子　でも登坂さんはそういう事はないんじゃないか・・・

幸雄　いや。その方の言う通りです。(皆の注目が集まり)すみません突然。実は・・・妻のお母さんから聞いていたんです。お母さんもなぜ急に  
お父さんが離婚したいなんて言い出したか分からず、お父さんの持ち物とかを内緒でいろいろ調べてみたそうです。そうしたら、  
スケジュール手帳の、2015年10月2日のところに、「こう書いてあったそうです。」「YH愛してる」と。

金子　え？　じゃあ・・・

山本　スマセン娘さん、お父さんとお母さんが離婚したのって、何年の何月くらいですか？

真知子　え・・・2015年の12月です。クリスマスの夜、二人が夜遅くまで暗い顔して話していたから、このままだとサンタさん来れないよ。  
って思いながら眠ったの、よく覚えてます。朝になって起きたら、お父さんはいませんでした。

山本　じゃあそれって、離婚する二カ月前っすね。

幸雄　・・・恐らく、離婚する前に、YHってイニシャルの女性と、そういう関係だったんじゃないか。と思います。

岩崎　でも、YHって、実はお母さんの事だったとかってのはないのかな？　お母さんの苗字は？

真知子　林原です。

岩崎　ほらほらHだ。じゃあ、下のお名前は？

真知子　真理。です。

岩崎　あー。

山本　真理ってMじゃないスカ？　離婚する時に、YHってイニシャルの女がいたってことじゃないスカ？

森　え？　じゃあ・・・どうなるんです？

黒田　これは・・・借金の連帯保証人にはなったけど、同時に愛人もいたって事か？

金子　もー、せつかくいいトコだったのに・・・

幸雄　私は、それをお母さんから聞いた時、同じ男として、いい気持ちはしませんでした。家族であるお母さんや娘を裏切って、そんな女に走っ  
て。しかも、多額の借金までしていたのに、それすら二人には言わなかったなんて・・・家族って、なんなんでしょう？

そこまでされた人の気持ちが分からないなんて、こう言ってはなんです、軽蔑してもいいくらいの人ですよ。

山本 男って、結局、そういう生き物なんすよね。

金子 絵里奈ちゃん、ちょっと言い過ぎじゃ……

真知子 ……そうなんだ。父に……愛人……が……

幸雄 ああ。ゴメン。今まで黙ってて。

真知子 ううん。教えてくれてありがとう。

真知子、座り込んで、ハンカチで口元をおさえる。

幸雄 大丈夫？ 気分悪いの？

真知子 ううん。ちょっとフラッシュとただけ。大丈夫。

金子 ちょっと休んでいた方が……

真知子 いえ。すみません。

と、真知子、立ち上がろうとするが、またふらついてしまう。

F・O

第五幕

前場より20分後。

岩崎、山本、森の三名が、掃除機をかけた後、拭き掃除をしていたり、ゴミをまとめたりしている。

森　まだですかね？　社長と娘さん夫婦。

岩崎　ああ。とりあえず奥さん所に挨拶行かないと行って行ったけど、結構かかってるな。

山本　大家さん、なんて言いますかね？

岩崎　うーん・・・あの婆さん、ケチくさかったからなあ。娘さんに、ここの清掃代払えとか言ってるんじゃないのか？

山本　エ？そんなの払えるわけじゃないじゃないっすか。あの娘さん、興信所使ってここの場所調べたんすよね？その支払いだってあるのに、ここの代金までなんて・・・

森　あの一、ここの代金ってどのくらいなんですか？

岩崎　ここだと・・・9万くらいかな？

森　結構高いんですね。

山本　新人。男はさ、結局浮気する生き物だけど、やめんなよ。

森　だからそれとやめると関係ないじゃないですか。

岩崎　まあいいや。ここでグズグズ言ってもしょうがない。俺達は仕事しよう仕事。

黒田　(ドアを開けて出てくる)だーめだーせんっせん流れない。どっかってんだアし？粘土がコンクリでもつまってるんじゃないのか？  
岩崎　ダメそうか？

黒田　いろいろやったぞ。でもあれは難しいなあ。やっぱり餅は餅屋に任せた方がいいんじゃないか？

岩崎　これから他の水系の業者に頼むと、また金かかるからなあ。できれば、うちだけで全部終わらせたいんだが。

山本　(突然、上手ドアを出てくる)

岩崎　絵里奈ちゃん、どこ行ったんだ？

森　(首をかじげん)

岩崎　困るなあ。もうちょっとで終わるってのに。

黒田　終わらねえよ。まだトイレがあるんだから。

山本　(戻って来る)

岩崎　どこ行ってたんだよ？

山本　あ・・・ちよい、あの娘さんの様子気になって、隙間っから覗けなかなあって。ホラ、さっき、アタシが言い出して、あんな話に

なっちゃったんで。

岩崎 そうか・・・それで心配したんだ。絵里奈ちゃん、以外と優しいよな。

山本 イヤ・・・さっき、なんかいい雰囲気だったの、ぶち壊しちゃったのあたしだし。

森 でも、僕は、良かったと思います。山本さんがあやまって言ってくれて。娘さんもお父さんにそういう女の人がいたって知る事ができたし、僕も、山本さんが今まで大変な想いしてきたって事が分かったし。

山本 森君・・・ひよっとしてホした？

森 いえいえ。

山本 ゴメン。アタシ、付き合ってる人いるけど。アタシに振られてもやめんよ。

森 だから違いますよ。・・・あの、僕、実は学校で長い間いじめられてきたんです。それで、学校にも行けなくなっちゃって・・・それで、

貯金はたいて、インドに三カ月一人旅に行きました。言葉は通じなかったけど、ここでは誰も僕をいじめないんだなって思ったら嬉しく  
て・・・向こうで、街のお祭りなんかも参加したりして・・・

山本 あー・・・森君。

森 はい。

山本 そういうの知らない。

森 へ？

山本 いじめられて、不登校で、インドに一人旅って、全部そこらへんにあるようなくある話だから、そういうのいや。

森 いや、でも、これから、現地の人と仲良くなった話とかに・・・

山本 知らないっスよね？別に。

岩崎 (少しきえて)っん。

黒田 まあ、知らないな。

森 え、ええ〜？

金子、続いて真知子と幸雄が戻って来る。

岩崎 どうでした？

金子 話したけど、ダメだったあ。奥さん、娘さんが遺品を引き取るんなら、私達への代金払えって。

岩崎 やっぱそうか。

黒田 ケチだねえ。ちよっとくらい持ち帰ったっていいのに。

山本 (真知子にあの・・・なんか、すみません。さっき。

真知子 そんな、いいんですよ。

幸雄 そうです。お父さんの愛人の事を喋ったのは僕なので。

真知子 でも、主人に言ってもらえなかったら、アタシ、お父さんのそんな大事な事知らないままだったし。(他の人たちにみなさんも、すみません)ご迷惑おかけしてしまって。こんなにきれいにしてもらっただけでありがたいのに、大家さんに話しまでして頂きまして、

幸雄 ありがとうございます。(頭を下げる悔しいけど、ちょっとこの清掃代まで払うのは無理なんで、遺品を持ち帰るのはあきらめます。でも、9万くらいだったら、僕の定期貯金を崩したりすれば。

真知子 ううん。今まで幸雄君にはいろいろやってもらったんだから、そこまでやってもらうわけにいかないよ。

ちよっと・・・調子悪いから、車の中で休んでる。

幸雄 大丈夫？

真知子 うん。大丈夫だから。(金子たちにちよっとすみません。

真知子、部屋を出ていく。

幸雄 ああ言って、平気な顔していますが、だいぶショックだったと思います。

金子 そつですよね・・・妊娠してらっしゃるのに、ここまで来るのも大変だったんじゃないですか？

幸雄 ええ・・・(ため息を一つつく)実はですね、お腹の子、僕の子じゃないんですよ。

金子 エ？・・・

幸雄 彼女が前に付き合っていた男との間の子です。その男は仕事の都合で海外に移住になって、そのまま連絡つかずになったみたいで捨てられたみたいなんです。それで、彼女が一人でも産むって言っているので、友達だった僕が、一緒にならうって彼女に言って・・・だから、僕はお父さんの事が許せないのかもしれないかもしれません。

金子 .....

幸雄 でも本当は、僕も怖いんですよ。これから産まれる子供と彼女を、いつかお父さんみたいに、裏切って捨てるのかもしれないって思う事もあって・・・

金子 そんなことはないですよ。きっと・・・いい家族になりますよ。

幸雄 (フッと笑って)そつですか？

金子 はい。私が保証します。大丈夫ですよ。

幸雄 ありがとうございます。(携帯が鳴るので画面を見よめ、会社からだ。ちよっとすみません。

幸雄、携帯に出ながら、部屋を出ていく。

金子 アタシ、決めた。

岩崎 何をです？

金子 あの娘さんに絶対お父さんの遺品、持って帰ってもいいの。

岩崎 でも、うちへ支払うの、難しそうでしたよね？

金子 だから、部屋片づけてたら、お父さんの遺品の中からお金が出てきたってすねばいいじゃないのよ。

岩崎 エでも・・・これまで出てきたのって、合わせて二万二千円くらいですよね？

金子 出ないなら、作っちゃえばいいのよ。

岩崎 作るって？

金子 だから、現金が出てきたことにしちゃえばいいのよ。ホラ、あと五万円くらい出してへば、さっきのと戻しての万円。残り三万円くらいならなんとか出せるでしょう？

黒田 でも、現金なんてどうやって作るんです？

金子 だから、アタシ達の三人で出すの。持っているでしょ？それくらい。 (財布を出して) 今・・・一万五千円くらい。

山本 すくなく！

金子 岩崎さんは？

岩崎 (財布出して) 一万・・・三千元とちょっとです。

山本 岩崎さん、その年でそれっすか？

岩崎 カードで支払う派なんだよ。

金子 黒田さん。

黒田 (財布を見て)・・・八千円・・・か。

森 ここって、そんなに給料安いんですか？

黒田 今日はたまたまだよたまたま。ああでも・・・これあるぞ。(チケットを出す) 八代亜紀の来月やるコンサートのチケット。SS席だぞ。

金子 じゃあ、それも合わせて、掃除中にあつたことにするからね。

黒田 エエ？ 八代亜紀もですか？

金子 だってしょうがないでしょう。お金足りないんだから。チケット、売れば高いんでしょ？

黒田 そりゃまあ、ファンにはたまらないですからね。

金子 じゃあいいのよ。(奪) 娘さん帰ってきましたら、本当に自然に、このお金とチケットが掃除中に出てきたんですってお話を聞かされたのよ。

岩崎 下手に気づかれちゃうと、娘さん受け取りにくくなっちゃうから、自然に、自然にね。分かりました。



黒田 (不服そうに)ふぁい。

真知子、戻って来る。

真知子 すみません。少し良くなりました。

金子 大丈夫ですか？ 本当に無理しないで。

真知子 ありがとうございます。あ、今、母から電話がありました。私の体調を心配して、かけてきたみたいです。母は、興信所に調べてもらっても、ここに来るのも反対してました。あんな男なんて探す価値なんかないんだって。

金子 そうなの……

真知子 すみません。皆さんの作業のじゃまになってしまつて。ごうごう、気にせずによつてくだらう。

金子 あー、そうなんですけどねえ、ちょっと……掃除中に何か見つけた物があつて……それで、娘さんにも見てほしいなあって思つてたんですのよ。おホホホホ。

山本 (小声で)自然かアし？

森 (小声で)まびしいですな

金子 ねえ、岩崎さん？何か見つけたつて言つてましたよね？

岩崎 (急に振られてびっくりして)お、あ、ああ。そうですよ。なんなのかなあこれは。私達は清掃業者だから、これは、ご遺族の方にお渡ししないとなあつて思つてたんですよ。

金子 (わ)おおびらして出ていってそわつて、口いよね？

岩崎 (お)おおびらしてさうですさうです。なんでこんなものがあつたんだらうなあ。

黒田 (黒田に)なああ？

黒田 そうです……その……チケット……多分ですけど……手に入れるのに、大変な苦勞をして、手に入れたんじゃないかな……と思つてます。

岩崎 (そ)う！強調してお父さんが買ったんだらうなあ。

金子 (わ)おおびらしてさあ、お父さんのものだったら、これはどうしようかしら……娘さんにお渡しするのが当然よねえ。

岩崎 (お)おおびらしてそれは、その通りですよ社長。

金子 (じゃ)あ、じゃ、じゃ、じゃ。

岩崎 いやあ良かった良かった。これにて一件落着。

森 (小声で)全然落着いてませんよ。

山本 (小声で)クソだなこれ。

黒田 良かったなあ……あの……娘さん、そっちのお金は……いいです。もういいんです。ただ、その……「八代亜紀 春の訪れの宴 SS席Bー7」だけは……すみません、いいですか？

金子 黒田さん、どうしたの？ 疲れてる？ 昨日寝てないって言うってたものね。

岩崎 社長、黒田は今日はもう帰った方が……

金子 うん、そうだね。帰ろう帰ろう。

黒田 それだけはダメなんです！ だって……とてもとても！ 楽しみにしてるんです。だから、だから……

幸雄、戻ってくる。

幸雄 すみません。会社の方でちょっと私しか分からない事だったんで。

黒田 だから、お願いします。返して……ください。

幸雄 ……どうしたの？

黒田 (……深々とお辞儀して) どうかお願いします！

真智子 すみません。お気を使わせてしまって。(お金を返す)

金子 あ、はい……こっちはなんだかすみません。

黒田 社長！ 申し訳ございません！(頭を下げる)

金子 ああ、いいのよ黒田さん。岩崎さんも、なんかゴメンね。(金を二人に返す)

山本 (小声で) みんな大根役者。

森 (小声で) でも黒田さんはチケットへの想いが伝わりましたよ。

山本 (小声で) 芝居じゃないからね。

金子 よし！(人生ゲームを広げてテーブルに置く)こうなったら、私、決めたい！大逆転ビッグウルトラチャンス！ このルーレット回して、1が出たら、なんと、今回の清掃代金、全部タタにしまーす。

黒田 社長、いくらなんでもそれは……

岩崎 大丈夫なんですか？

金子 大丈夫じゃ、ありません。でもいいの、私決めたから。さ、運命の、ルーレットお〜！

金子、ルーレットを回す。皆が集中している。

【1以外が出た場合】

黒田 あ、止まった。これは……〇〇だ。だから、タタにはならない。  
岩崎 社長、残念でしたね。(反応ない)社長?(反応ない)……社長?(反応ない)  
金子 (心臓を抑えてハーパーと荒い息をすする)  
山本 めっちゃビビってたんじゃん。

【1が出た場合】

黒田 あ、止まった。これは……1だ。だから、この部屋の清掃代、全部タタになりましたー!  
岩崎 社長、良かったですね。(反応ない)社長?(反応ない)……社長?(反応ない)  
金子 (怒り出してあーそつですか分かりましたよ。どうせそつなるんじゃないかと思いましたよ。分かりました。エー分かりました。タタにしますよ。あーもうダメだうちの会社。今月赤字だ。おしまいだこりゃ。  
山本 めっちゃ怒ってる。  
森 しかも子供っぽく。

真智子 あの……もういいんです。みなさん、いろいろとありがとございます。もう……こねばかりは仕方がないので。私は納得していますから。  
金子 そつですか。分かりました。  
山本 受け入れてるし。  
岩崎 でも、ごうじましようかねえ……  
黒田 うーん……

みんな、俯いて考え込む。空気が停滞してしまつ。

黒田 ダメだ。なんも思いつかねえ。ちょっと一服してくるか。  
岩崎 それもそうだな。(苦悶の表情の森に気づいてごうじした森君?)  
森 すみません。ちょっと……お腹が痛くなって、トイレ……  
岩崎 ああ、じゃあすぐ行って来な。  
森 すみません(お腹をおさえながらユニットバスのドアに入る)  
金子 なんかこれだけ人間いるのに、なんかいいアイデア出ないのかしらねえ。  
黒田 ちょっと待て。

金子　なんか思いついた？

黒田　森君、トイレ使っちゃって……トイレの？

金子　そのしゃそつでしゃつしゃつして一個しかないんだか……(笑)あー

黒田と岩崎、「だめだー」「やめろー」と言いながらドアの中に走って入る。「なにをするんだか」「うんぬんからやめろ」「うんぬんか」「うんぬんか」ガチャガチャ声が出て、少し下げたスポンを押えた森を両脇から黒田と岩崎が抱えて出てくる。

森　もう出ちゃいますってー！

金子　下の大家さんトイレで借りてー！

岩崎　はい。

三人、そのまま上手ドアから出ていく。

金子　なんかすみません。騒がしくて。

真智子　いえ。

山本　じゃあ、アタシもちょっと行って来ます。

金子　どう行くの？

山本　シエスチャーでタバコを引いて、上手ドアから去る。

幸雄の携帯が鳴る。

幸雄　(電話)出たのは……あー。だからそれは、そっちの数字のままでもいいんですけど……それは、ちょっと資料見ないと分からないな。(通話口を押えて)ちよっとすみません。車の中に行っちゃいます。

金子　はこ。

幸雄、上手ドアから出ていく。

金子　……お忙しそうね。

真智子　はい。今日、無理して休んで一緒に来てくれたんです。

金子　そう。優しいのね。旦那さん。

真智子　あの・・・何か、嘘ついてるみたいで嫌だから言っちゃいますけど、この子、幸雄君との子供じゃないんです。私が前に付き合っていた人との子供で、私捨てられちゃって。それで、幸雄君と結婚して・・・

金子　あ・・・ゴメンね。それみんな知ってるの。さっき気分が悪くなった時、旦那さんが話してくれて。

真智子　あ、そうなんですか。あの・・・すみません。社長さんは、お子さんはいらっしやるんですか？

金子　残念ながないのよ。独身なの。この年になって。(独り言)今日はお子さんがいるか聞かれるわ。

真智子　私達の事って、どう思います？　父親と血の繋がっていない子供のいる家族なんて、おかしいでしょう？

金子　えー・・・うん・・・ごめんね！　40代で独り者の女にそのお題は厳しいわ。ちょっと、何て言ったらいいかわからない。

真智子　そうですか・・・

金子　なにか、迷ってるの？

真智子　いえそういうわけじゃ・・・でも、そうですね。迷ってます。

金子　幸雄君、だっけ？　彼ならいい人そうだけどなあ。

真智子　はい。本当にいい人なんです。お腹の子の事、自分が大好きな人が産む子なんだから俺の子なんだって言うてくれるし。

金子　でもやっぱり、申し訳ないって言うか、不安って言うか・・・なんだかすみません。警沢ですよ、私。

真智子　人生、万事塞翁が馬。ね。

金子　・・・どういう意味ですかそれ？

真智子　うん？　昔ね、あるお爺さんが飼っていた馬が逃げ出したの。周りの人は慰めたけど、お爺さんは「これは良い事だったかもしれない」ってあまり気にしてなかったの。そしてその馬が、たくさん仲間の馬を連れて戻って来たのよ。周りの人は喜んだけど、お爺さんは「これは良くない事かもしれない」って言ったの。そしてそのお爺さんの息子がその仲間の馬に乗って落ちてケガをしたのよ。周りの人はお見舞いに行っただけど、お爺さんは「これはいい事かもしれないよ」って言ったの。そしてその国に戦争が起きて、お爺さんの息子はケガをしていだから兵隊に連れて行かずに済んだのよ。だから、「なにがどうなるか運命は誰にもわからない」ってこと。

金子　へー、そうなんですか。物知りなんです。

真智子　まあ、長く生きてるから、ちょっと知ってるだけよ。

黒田、岩崎、山本が戻ってくる。

金子　おかえり。森君どうだった？

岩崎　大家さんの所のトイレに入りました。その後で俺らタバコ吸ってましたんで。

金子 じゃあ間に合ったのね。良かったわ。

岩崎 しかしまあ、どうしようかなあ。遺品。

黒田 大家さんに内緒で、娘さんにちよつと渡しちやおうか？

金子 それはでもダメよ。ウチの信用問題になっちゃうし。

黒田 そうか・・・

眞智子 あ、本当にいいんです。もう。愛人なんか作ってた人なんですから、たぶん、バチが当たったんですよ。本当に、あんな父親の為に、みなさんありがとごうございます。

黒田 でもよ、本当は、あの大家さんが「どうぞとごう遺品の一つでも持ってってくださいな」って言ってもバチ当たらないのになあ。

岩崎 やめとけよ。

黒田 大体あのはあさん、けち臭いんだよな。(徐徐に大きな声になる)こんなアパート持って家賃もらって食ってたから、それくらい優しい所見せたっついいのよお。

岩崎 やめろっつば。

ドアが開き、玲子と森が立っている。

金子 (夢想よく)あ、大家さん。どうしました？ なにか？

玲子 いやね、この子がトイレ終わったから、ちよつと心配で送っていくついでに、トイレの詰まりの様子見てこようって思ったんだけど、したらなんかババアだなんて外で聞こえたけど。

金子 (白々しく)さあ、そんな事言ってたっけ？

黒田 ああ、「バババア」と掃除しちやおうぜ」とかは言っていましたね。

玲子 まあなんでもいいけどな。それより、トイレ、ちよつと見せてもらおうよ。(上がって、ユニットバスのドアに入る)

岩崎 岩崎さん！

玲子 あ、そうだ。(何気なくドアの手元に近づいてノックを三回)

山本 (それに気がついて)ドアから出て(何やってんの)アノタ？

黒田 勘、スゴイっスね。

玲子 まさにナチスだな。

山本 何そこでちやちや喋ってるの？

黒田 なんでもないっスよ。

黒田 ハイルヒットラー！

玲子 で、あなたは何やってんの？

岩崎 なんでもないですよ。ここ…建付けが悪いようので、ここから行って音を聞いてたんです。ここから二回ノックする  
ハハハハ二回ノックする

玲子 なーんか、怪しいわね。そっこの部屋。

岩崎 いや、こっちは、少々強めの消毒剤を今散布したので、入れないんですよ。

玲子 いいから。どきなさいよ。(岩崎をどかさうす)

岩崎 人体にも害がありますから(必死に止めて押し戻す)

玲子 この年になって害もくそもないからいいのよ！(行くうす)

岩崎 ダメですって(押し戻す)

下手ドアから茂が出てくる。

茂 すみません。ノックが合計七回あったけど、七回ってなんの合図でしたっけ？

玲子 あーいやがった！

茂 キャー！

茂、下手に逃げる。それを追う玲子。トタンバタンと音がする。それを覗く黒田と岩崎と山本。

幸雄が上手ドアから戻ってくる。

幸雄 どうもすみません。(部屋の様子に気がきどつかしましたか？)

金子 ちょっと…

山本 ううわ、ばあさん、馬乗りになって叩いてんじゃないんですか。

岩崎 あの旦那も情けないなあ。

黒田 俺たち、どっちの応援すればいいんだ？

山本 才、旦那の反撃！

岩崎 もすべに返されて、腕をひねられた。

黒田 こりゃ痛そつだなあ。

山本 お、旦那の反撃？ 両手で組み付いた！

岩崎 でも蹴られた。

黒田 こりゃ一方的だなあ。

山本 やべ！ こっち見た。

岩崎 マズイ！

黒田 逃げる！

三人、下手ドアから逃げるように離れる。

茂、逃げるように出てくる。玲子、追いかける。茂が倒れてその上には王女がするする玲子。

玲子 もう観念しな！

茂 待った。待った。参ったから、ちょっと待って！

玲子 何だよ？ 言い訳すんのかい？

茂 そうじゃなくて、ちょっと待っててくれて言ってるんだ。ちょっとでいいから。

玲子 そんなこと言ってまた逃げようだったってそうは・・・

茂 (男らしく強いのを言う方の方の後で言いつつおりにするから、ちょっと待ってて言ってるのがわからないのか！)

玲子 ……

茂 (周りにああ、すみません。(立ち上がる)あの・・・登坂さんの娘さん？)

真智子 ……はい。

茂 じゃなくて、僕は・・・旦那さん、の方に話したいんですよ。

幸雄 私にですか？ なんででしょう？

茂 あの・・・私、向こうで今までの話を聞いていたんですが、あなた、さきほど、登坂さんの手帳の2015年の10月2日の所に

「YH愛してる」と書いてあった。とそう言っていましたね？

幸雄 そつです。お母さんがそれを見たって。

茂 (考え込む)ああ・・・じゃあ・・・そつだ。ちつぷ。

幸雄 何ですか？ 何か・・・

茂 私・・・その「YH」って人を知っています。

玲子以外の全員、「え？」という表情。

金子 じゃあ・・・ここに来たんですか？ そのYHさんが。



茂 いいえ。

黒田 なら、二人が一緒の所を偶然見かけたとか？

茂 いいえ。

岩崎 だったら、写真とか？

茂 うーん・・・写真は見たことあるんですけど。

岩崎 登坂さんと愛人が二人で写ってる？

茂 (笑って) そうじゃないんですけどね。

金子 エ？ どういうことなんです？ ちょっと・・・わからないんですが。

茂 じゃあね、説明します。ますね・・・私は、阪神ファンなんですよ。

黒田 はあ。

茂 1985年甲子園球場でのバース掛布岡田のバックスクリーンへの三連発。すこかったですねあれは。いまだにバックスクリーンに消える白球の残像を覚えています。

金子 あ、それで？

茂 登坂さんは、ヤクルトファンだった。(真智子に) そうですよ？

真智子 はい。家でお酒とか飲んで酔っ払ってくると、昔の一番強かった時の話をずっつと話してました。野村監督？と古田がどうしたこうしたとか・・・

茂 そうですよ？ 私も、登坂さんとは昨日は勝ったただ負けただっって話を時々しましたから。

森 それと愛人と、どういう関係なんです？

茂 その前に、皆さんは、2015年って年がどんな年だったかご存知ですか？

黒田 さあ・・・

茂 「史上まれに見るペナントレースの混戦。ヤクルト、阪神、巨人、広島の四チームが4、5ゲーム差の中にひしめき合い、どのチームが優勝するか9月が終わっても決まらなかった」年なんです。忘れもしない。10月2日の神宮球場でのヤクルト対阪神戦。7回を終わった時点で1対0でヤクルトが勝っていたが、8回の表、ついに阪神が1点取って追い付き、同点のまま延長戦へ突入。延長10回の裏、ワンアウト三塁。ピッチャー能見の投じた内角ストリート、バッター雄平がライト線ギリギリに入るサヨナラヒット。その瞬間、ヤクルトスワローズの14年ぶりのセリーグ優勝が決定した。

黒田 それで・・・そのヤクルトの優勝と、その愛人はどういう関係が？

茂 今言ったの聞いてましたか？ よく思い出してください。＼＼出て出てきましたよね？

岩崎 (岩崎に) 分かるか？ 出てきたの。

黒田 さあ・・・

金子「出てきたのって・・・ピッチャー・・・能見？」

山本「あと、バッターって・・・なんとかい？」

森「あー分かった！ ひよっとして、サヨナラヒット打った雄平が「YH」？」

茂「うなづいてそうですね。2015年の10月2日にヤクルトファンが「愛してる」なんて言うYHは、サヨナラ勝ちと優勝を同時に決めるヒットを打った、雄平しかないんです。

金子「エっじゃあ、愛人じゃなくて・・・」

茂「雄平ってのは、高井雄平と言って、5番バッターでコリラみたいな身体したバッターでした。だから、ちょっと愛人にはならないんじゃないかなあ。」

金子「・・・それだったら、お父さん、愛人はいなかったんですよ。お母さんが見たメモってのも、ヤクルトファンで、優勝が決まったその日に

嬉しくて思わず手帳に書きちゃったんですよきつと！

黒田「ってことは・・・殺し屋じゃなくて、愛人はいなくて・・・」

岩崎「借金の保証人になったから、あなたとお母さんを巻き込まないように離婚した・・・」

森「・・・結構、いい人だった？ いや、どっちかって言うと、かなりいいお父さんだった？」

金子「(真智子に)そういう事になります・・・よねっ」

真智子「・・・はあ。」

山本「新人、新人！」

森「はい？」

山本「ボール持ってたんだろ？ キャッチボールしよ、キャッチボール。」

森「なんで今やるんですか？」

山本「いいだろ！ なんかわかんないけど、アタシ嬉しくなってきた、やりたい気分なんだよ。キャッチボール。」

森「はい(ポケットからボールを出す)じゃいきますよー。(投げ)」

山本「はいよ(投げ返す)」

金子「ちょっとあんた達、今やめなさいよ、こんな時」。

玲子「(大声で)ちょっと待ちなよー！」

山本「森 動きを止める」

金子「(小声で)ほら、奥さん怒っちゃったじゃないの。(態度変えて)すみません、もう本当に最近の若い口は・・・」

玲子「そうじゃなくってさ、そのボール。」

金子  
ボール？

山本  
ああ、これ、この部屋にあったヤツっすけど？

玲子  
(震える手でボールを受け取りそれをまじまじと見て)アンタ！これ……

茂  
ああ。(感激しながらボールを受け取り眺めて間違いない。本物だ……ああ、本当に持ってたんだ登坂さん。この目で見れると思わなかった……)

金子  
あの……大家さんも奥様も、どうしたん……ですか？

茂  
これ……イチローボールなんです。

山本  
イチロー？うちの弟は「ともき」っす。

茂  
あーもう違っ！イチロー……本当に持ってたんだあの人。

黒田  
あの……どうしたんですか？

登坂さん言ってたんです。前に。イチローが「鈴木一朗」の時代に書いたサインボールを持ってるって。でもいっくら頼んでも見せてくれなかった。「いつか必ず使う時が来るから、大事に取っておく」って言って。

黒田  
イチローって、あの野球選手だった？

岩崎  
ああ。あのおじいさんの。

玲子  
そっだよ。そりゃ今じゃあんなおじいちゃんだけとき、昔は瘦せててそりゃカッコ良かったんだよ。

茂  
そのイチローが、「鈴木一朗」って名前です選手だったのはプロ入りして最初の二年間だけ。しかもほとんど一軍じゃ活躍してなかったんだから、その時に書いたサインボールはこっとも貴重なんです。

金子  
じゃあ、もしですけど、このボールを売ったら……

茂  
10万円。いや、20万円出しても安い。

金子  
大家さん……ちよっとすみません。もし、娘さんがうちの代金を払うなら、ここにある遺品は全部娘さんのものですよな？

茂  
まあ、そうなりますね。

金子  
じゃあ、ひよっとしたら、このボールも……

茂  
そりゃあ、これも遺品の一つ……ですからね。

金子  
娘さんのもの……という事？

玲子  
(怒って)アンタ！

金子  
はい！

玲子  
確かにうちはケチな大家だけどね、そんな死んだ人の遺品を横から奪つみたいなのはしませんよ。全部娘さんに任せますよ。

黒田  
じゃあ……

岩崎  
そのボール売れば、娘さんが遺品持って帰れて、うちにも代金支払えるってことだな。

茂　ちよっと待ってください！(真知子に)娘さん・・・どうかお願いします。このサインボール、売ってもらえませんか？  
20万・・・いや、二十・・・五万まで出します。

真智子　あの、私・・・よく分かりませんが、それで大家さんも喜んで頂けるなら、お譲りします。

玲子　あんた！良かったよ、まさかイチローボールが手に入るなんて・・・アタシ、嬉しすぎて・・・ちよっと水を一杯飲みたい。

金子　ああ、ハイどうぞ。(ペットボトルを渡す)

玲子　ああ、ありがとうございます。(飲む)なにこれ？

金子　三ツ矢サイダーです。

玲子　水って言ったじゃないか！でも・・・うれしいよあたしゃ。

茂　そうだな。

岩崎　掃除中に出た1万2千円と25万で・・・26万2千円。うちの支払いしたとして・・・

黒田　10万以上余るから、それは・・・

金子　お父さんから娘さん夫婦への出産祝い、って事になるのかな？

山本　新人！やったー！イーイー(森とハイタッチする)

黒田　良かったなあ。これで万事丸く収まるだ。

岩崎　こんな事ってあるんだな。

真智子　すみません皆さん。ありがとうございます(頭を下げる)

茂　じゃあ、そういうことで。娘さん、後で下に寄ってください。ボールのお金をお渡ししますんで。

真智子　はい。

茂　(玲子に)オイ、行こう。

玲子　ああ、そうだね。

茂　(行こうとして、幸雄の所に近寄って)旦那さん。あなたに言っておきたい事があった。

幸雄　なんでしよう？

茂　うちら夫婦はね、子供が欲しくてもできなかったんです。いろいろな事やって、家一軒建つくらいのお金も

使ったけど。結局夫婦二人だけでこんな年になってしまった。だから・・・きっと大丈夫。血なんか繋がってなくても、

あなたたち、いい家族になれるよ。(肩をたたく)

幸雄　ありがとうございます。

玲子　(真智子に)近寄りのお腹、なでていいかい？

真智子　とじつわ。

玲子　(お腹を優しくなでながら)うらやましい・・・うらやましいねえ・・・

茂 おい。

玲子 分かってるよ。(目じりをそっと拭く)  
茂 それじゃ。

茂、玲子、去る。

真知子 ア、さっき、「人生ゲーム」ありましたよね？

金子 ああ。これですか？

真知子 そうです。これって、私達が一緒に住んでる時に、父とよくやったものです。出張多くて、たまにしか出来なかったんですけど。母に

金子 「お父さんと真知子は本当に人生ゲーム好きね」って言われるくらい、お父さんが休みの日はいつも二人でやってました。やっぱり、「想い出の品」だったんですね・・・それ、押し入れの奥の方に大切に仕舞ってありましたよ。

岩崎 お父さんにとっても、娘さんとのゲームやったのが、いい思い出だったんじゃない・・・(感極まって涙する)

黒田 (にこりと岩崎の肩を叩く)

金子 さ、じゃあ私達は、作業一回やめて、休憩にしましょう。ね、休憩休憩。みんな外出しましょう外。

山本 (察して)ああ、そうっすね休憩。ちようどタバコ吸いたかったんだよねあ。

黒田 (察して)うん。みんな外に出ような。

森 あれ？ さっきタバコ吸いに行ってたんじゃないですか？

金子 (凄顔で)いらんであれは小休憩！ 今度のはホントの休憩。森君も外の空気吸いたいって言ってたわよね？

黒田 (怒り顔で)シユース買ってやるから！な！ シユース飲みたいんだよね？

森 (ようやく察して)あ、あ、ああ、そうだ、シユース飲みたかったんだよねあ。

山本 ほら、岩崎さんもいつまで泣いてるんすか？

岩崎 うん。

5人、出ていく。

幸雄 すいこよな。

真知子 えっ？

幸雄 真知子のお父さん。すいこよ。真知子とお母さんに迷惑かけないようにして、死んだあとなお祝いまでくれて。

真知子 うん・・・そうだね。

幸雄 おれもさ・・・なれるかな？お父さんみたいな父親に。

真智子 塞翁が馬。

幸雄 エ？

真智子 (笑って)大丈夫だよ。なれるよ。幸雄君なら。

幸雄 そうか・・・あのさ、俺、車の中で待ってるから。

真智子 え？

幸雄 まだちゃんとお別れしてないだろう？ お父さんと。二人っきりで、ちゃんとお別れ言いなよ。

真智子 うん。ありがとう。

幸雄、ドアから出ていく。

残された真智子、部屋の中をキョロキョロと見て回る。何か、父の残した痕跡を探すように。

「人生ゲーム」に目を止める。テーブルの上に人生ゲームを広げて、そこにコマを並べる。

座って、少しの間、ルーレットを回しては駒を動かしたりしている。

トイレの水が流れる音がする。ユニットバスのドアから、ヤクルトのユニフォームを着た登坂幸平が出てくる。

登坂 (スポンを直しながら)真智子、もうやったか？

真智子 うんやったよ。次はお父さんの番。

登坂 よーし。(ルーレットを回す)Oかぁ。(コマを動かす)オー！株が暴落したあー！

真智子 へっへー。じゃあ次私。(ルーレットを回す)Oね(コマを動かす)ア、「新商品が爆発的ヒットした。12万円もらう」

登坂 クソー。じゃあ次はお父さん(ルーレットを回して)コマを動かす)エ？「最新式4Dテレビを買う。10万円払う」

そんなの買わなくていいんだよー。

真智子 ついてないね。(ルーレットを回して)コマを動かす)オ？「好きなバンドのコンサートに行く。2万円払う」

マ、好きなものならいいや。

登坂 そうか・・・(ルーレットを回して)コマを動かす)「宝くじが当たる。3万円もらう」「ラッキー！

真智子 良かったね。(ルーレットを回して)コマを動かす)あ、結婚に止まったよ。「みんなからお祝いの千円もらう」

やったー！はいお祝。

登坂 (お金を渡して)はい、おめでどう。(ルーレットを回して)あ、給料日だ。えーと、職業は販売員だから、2万円か。安いなー。

真智子 (ルーレットを回して)「買った美術品が高騰する。10万円もらう」うお、たー！うー！

登坂 いいなー。じゃあお父さんも。(ルーレットを回して)うわ、また株が暴落したー!

真智子 ハハハハ。(ルーレットを回して)「子供が生まれる。みんなからお祝い五千円」だって。やった。

登坂 (真知子をじっと見る)

真智子 ……お父さん、どうしたの?

登坂 真智子の子供、見たかったなあ……

真智子 ……そうだよ。せっかく子供産まれるから、会わせたいって思ってた探したら、お父さん、死んじゃってるんだもん。困っちゃったよ。

登坂 ごめんな。

真智子 あのさ、お父さん。

登坂 なんだ?

真智子 どうしてアタシの事あんな可愛がってくれたの? 血がつながってないのに。

登坂 (笑って)そうか……あんな、まだこんな小さくて、背負ってるランドセルの方が大きいみたいなお前が、「ニニニ」笑いながら

「お父さん」って言うてくるんだぞ。あれは……その……なんて言うか……

真智子 なに?

登坂 卑怯だ。

真智子 へ?

登坂 だって……卑怯だろう。あんな可愛い笑顔で「お父さん」って。そりゃあ、またその笑った顔みたくて、なんでもしてやるって

気になっちゃうよ。

真智子 そうか……卑怯か……小さい頃の私、卑怯だったんだ。そうか……

登坂 だから、幸雄君も、きつと大丈夫。お腹の中の娘を、真智子がびっくりするくらい可愛がってくれるよ。

真智子 そうだね。うん。きつとそうだ。

登坂 うん。(真智子の頭をクシヤクシヤとなでる)

真智子 (目頭をおさえる私と幸男君とこの子、ちゃんと家族になれるかなあ。

登坂 うーん……それは、結局お母さんと離婚しちゃったお父さんは、分からないかな。

真智子 (フッフッと笑って)家族になろうとして失敗しちゃったもんね。

登坂 そうだ。親なんて偉そうに世の中の事全部知ってるみたいに見えるけど、その実はお前たちと一緒にだよ。どれが正解かなんてわからなくて、たーくさん間違えて、たーくさん失敗してる。でもな、次のお前たちが、「ここで自分の親はこうやって間違えたから、自分はこうして

みよつ」ってやって、うまくいってくれたら、失敗した価値はあるってもんだよ。

真智子 ……ふーん、親も大変なんだね。

登坂

そう言ってる真知子が親になるんじゃないか。まあ、大丈夫。オールオッケーだよ。

真智子 うん……

登坂 (真智子の頭を優しくなでて) 親が子供にやめてやれることって、少ないんだよな。

真智子 そっなの？

登坂 ああ。出来れば、雑巾がけするみたいに、真智子の心の不安を全部拭って、お父さんの方に移してやりたい。

真智子 ……ありがとう。

登坂 ううん。ごめんな。

真智子 そっだ！お父さん。なんで、借金の事、私やお母さんに言ってくれなかったの？ 冷たいよ。

登坂 ……ごめん。

真智子 私、子供だったけど、言っただけだったな。

登坂 ごめんな、真知子。

真智子 お父さんと別れた後、私、寂しかったんだから。

登坂 ……本当、ごめん(立ち上がり、ドアの方へ歩き出しながら)

真智子 許さないよ、こんなに寂しい思いさせて。(ルーレットを回す)罰として、お父さんと別れてからの私の話、すうっと聞くこと。

(ルーレットを回して)中学にあがって、高校に入って、働いて、いろんな楽しい事や辛いことがあったんだから。(ルーレットを回して)

あとね、いつ誰と恋愛していたのかも、ゼーンぶ聞く事。嫌だろっなお父さん。(ルーレットを回して)夜になっても、眠たくなっても、す

うっとそばにいて話し聞くこと。(ルーレットを回す)分かった？お父さん……聞いている？ あの子、私、この子が出来てみて、あの頃の

お父さんの気持ち、ちゅっとわかるようになったよ……ねえ聞いてる？お父さん。(ルーレットを回す)また行ったっちゃうの？ お父さん……

お父さん……お父さん……ねえ、お父さん！

真智子、ハッとなにかを気づいたかのような表情をする。

ピンポンが鳴る。

真智子 はい。

金子 (ドアを開けて)すみません、戻りました。

5人、わらわらと入ってくる。

金子 あの……終わりましたか？

真智子 はい。ありがとうございました。



金子 良かった。

真智子 あの、すみません。父の遺品ですが、このルーレットを持って行きます。

金子 それだけで、いいんですか？

真智子 はい。これだけで。それじゃあ、私、車で幸雄君が待っているのです。一緒に大家さんの所に行って、そのまま下で掃除代金の方お支払いし

ます。あの皆さん、本当に、いろいろとお世話になりました。(頭を下げる)

金子 ーえー、(頭を下げる)おちひさしさん、ご利用ありがとうございます。肩に手をやって楽しくやんなさなひよ。

真智子 (にっこり微笑んで答える)皆さん、あさがとうございました。(深々と頭を下げる)

5人、それぞれ頭を下げる。

真智子、ドアから出ていく。

それぞれの想いな5人。

黒田 (ドアの中に入って)ウォー！

金子 どうしたの？

黒田 (出てきて)トイレ、流れてる！ あんだけ茶色い水が溜まったのに。

山本 ウソ！(ドアに入って出てくる)マジッス。超きれいに流れます。

金子、岩崎、森、もドアの中に入って確認して出てくる。

岩崎 社長。じゃあ、これでこの清掃・・・終わりじゃないですか？

金子 はい！ 清掃完了！ 皆さん、お疲れ様でした！

5人、「お疲れー」「お疲れさん」「お疲れ様です」などそれぞれが拍手して盛り上がる。

森 でも、何で流れたんでしょっ？

黒田 そりゃ、俺があんだけ苦労したからだよ。

金子 いえ。奇跡よ。清掃の神様の奇跡ヨ。

黒田 いや、俺が・・・

山本 やったー。奇跡イエー！(森とハイタッチする)

岩崎 さ。じゃあ、最後の片付けしていいんか。  
山本 ハイ。今日は早い上がりッスね。  
岩崎 そうだな。

それぞれが片付けの作業に入る。

金子 (人生ゲームを手を取ってあのさ、人生ゲームで絶対のないゴールって分かる?)

岩崎 さあ。なんですか?

金子 「一人ぼっちで死にました」ってゴール。

岩崎 (微笑んで) そつですね。もし一人で死んでも、こつやって我々と関わることば、一人ぼっちじゃないですよな。

黒田 あの・・・社長。すみません。

金子 なに?

黒田 もしですけど・・・もし、俺が一人で死んだら、俺の部屋の清掃、やってくれますか?

金子 当たり前でしょう? その時は、どんな恥ずかしい物出てきても、黙って処分してあげてあげて。あ、でも、その前に私が死んじやうかもだけども。

黒田 (笑)

岩崎 なんか、娘に会いたくなってきたなあ。

山本 今のうちに会わないと、嫌われたら会えなくなっちゃいますもんね。

岩崎 そしたら、あの娘さんみたいに、妊娠して俺に会いたくなるまで待つか。

山本 娘さん、いくつでしたっけ?

岩崎 8歳。

山本 気が長いッスね。

黒田 ア、これ。(ポケットから銃の弾を出す) そつ言えば、なんで銃の弾がトイシにあったんだ?

岩崎 やっぱ殺し屋だったとか?

黒田 かもな。

金子 あ、私、大家さん所に声をかけてくるから、これ持って先行くね。

岩崎 はい。

金子 (出)

黒田 これ持って先行くよー。(荷物持って出)

山本 じゃお先っス(荷物持って出る)

岩崎 森君、それ持ってきて。

森 はい。

岩崎 で、忘れ物ないか、最後ぐるっと見渡してくれな。

森 はい。

岩崎 (荷物持って出る)

一人残された森、ドアの中、下手入口やユニットバスの中を見回り、最後に部屋の中央にいる。

森 ……パリヴァール……パリヴァール……パリヴァール

山本、ドアが開いて入ってくる。

山本 新人、まだ？

森 (慌てて)はい。すみません。

山本 ニヤニヤして(アンタさ、今さ、インドの言葉なんか、カッコつけて言ってた？

森 (動揺して)そ、そんなわけないじゃないですか！

山本 ふーん……パリなんとかって聞こえたけど？

森 (さらに動揺して)パ、パリヴァールです。ヒンドゥー語で「家族」って意味ですよ。

山本 へー(頭をはたく)やっぱ言ってたんじゃない。

森 す、すみません。あの……山本さん。

山本 なに？

森 僕、ここでもっと山本さんと働きたいです。だから……やめんなよ。

山本 (森を見てにやりと笑って、今度は腹を殴る)

森 イテテ。すいませぬ。

山本 そんなセリフ10年早いわ。さ、帰るよ。

山本と森、部屋を出ていく。

ラストにぶさわしい音楽が流れ始める。

観ている観客が「さあ終わったのか」と思った頃、突然音楽が止まり、ドアから登坂幸平が顔を出す。

登坂 (出てきて周りを見まわして) オー、トイレに忘れ物してたか。失敗失敗。あれだね、まあ、人間、全部きれいにして死ぬってのは、難しい

んだなあ。無理だったわ。(部屋の中をぐるりと見回って) それにしても……結構きれいにしてくれたねえ。ありがたやありがたや

(拝む)

ピンポンが鳴る

登坂 はい。

ドア外の声 登坂幸平さん。お時間です。

登坂 はい。今行きます。

登坂、少し名残惜しそうに、ドアから出ていく。

また、音楽が流れ始め、温かい光に包まれる。

(幕)